

授業計画

平成 26 年度

Syllabus 2014

生涯福祉学部 こども福祉学科

生涯福祉学部

こども福祉学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

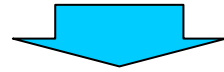
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

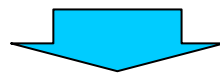


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

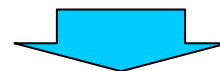


生涯福祉学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



こども福祉学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

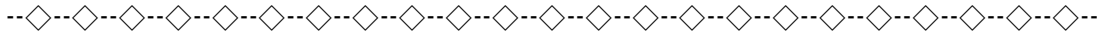
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

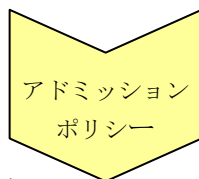
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

生涯福祉学部ポリシー

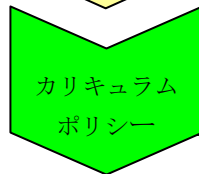
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・生涯福祉学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲と学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し、向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・生涯福祉学部では、「和」の精神に基づく教養を広く基礎として、人と人の生涯発達について理解するとともに、主に小都市・町村での学びを通して、生涯発達に応じ人を支援する地域社会に貢献できる「幅広い職業人」の育成を目指してカリキュラムを編成します。</p>	<p>・生涯福祉学部では、人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



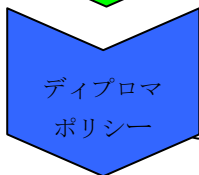
3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

こども福祉学科ポリシー

こども福祉学科は、「和」の精神を尊び、こどもの権利保障とこどもの育ちを支援し、地域における福祉社会を担い、こどもの健全育成に貢献する確かな実力を有する人材の育成を目指します。

アドミッション ポリシー

・生涯福祉学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 幼児教育・保育に関する専門職に関心を持ち、自ら学ぶ意欲のある人
2. 地域のこどもの生活に関心を持ち、子育て支援について専門的に学ぶ意欲のある人
3. 生涯にわたり地域や社会に貢献する意欲のある人

カリキュラム ポリシー

・こども福祉学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、こどもの福祉に関する専門的知識と技術を身につけるために、調べ、考え、議論をするという学習態度を身につける
2. こどもの発達の諸相を社会や文化など様々な視点から捉える事が出来るようになるために、広範な学問分野の知識や技能を身につける
3. こどもの個性を的確に理解したうえで、こどもを発達へと導いていく力身につけるために、専門的知識や技術を身につける
4. 子育てに携わるすべての人の気持ちに寄り添いつつ、子育て支援を提供する力を身につけるために、専門的知識や技術を身につける
5. 福祉社会の一員たる市民として、またこども福祉の実践的専門家とし、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける

ディプロマ ポリシー

・こども福祉学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（こども福祉）の学位を授与します。

1. こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力
2. こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力
3. 就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

こども福祉学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成26、25年度入学者)

授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
		A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	生物学			○			◎	
	目	食と健康	○				○	◎
実用英語(初級)		◎				○		
実用英語(中級)		◎				○		
中国語(初級)		◎				○		
中国語(中級)		◎				○		
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				○			◎	○
健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)		○			○		◎	
健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)		○			○		◎	
私のためのキャリア設計		○		○	◎			○

こども福祉学科カリキュラムマップ(平成25年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		こども福祉学科のディプロマポリシー								
		1			2			3		
		こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		
社会福祉基盤科目	生涯学習論	○		◎						
	生涯発達心理学 I	◎	○		○					
	社会福祉 I		◎		○			○		
	社会福祉 II		◎		○			○		
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I							○		◎
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II							○		◎
	ソーシャルワークの理論と実践 I			◎				○		
	ソーシャルワークの理論と実践 II			◎				○		
	児童家庭福祉		◎		○			○		
	低所得者に対する支援と生活保護制度		◎		○			○		
	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		○		◎			○	○	
	高齢者に対する支援と介護保険制度 II		○		◎			○	○	
	介護概論		○		○				◎	
	加齢及び障害に関する理解		◎			○				
	障害者福祉論		◎			○				
	権利擁護と成年後見制度		◎					○		
	地域福祉の理論と方法 I							◎		○
	福祉行政と福祉計画				◎			○		
	福祉サービスの組織と経営				○			◎		
	社会保障論 I		○					◎		
	社会保障論 II		○					◎		
	国際福祉論		○					◎		
	社会調査の基礎		○					◎		
社会調査の応用		○							◎	
心理検査法	○		◎							
精神保健福祉論	○					◎				
精神医学 I	◎	○								
精神保健学 I	◎	○								
精神保健福祉援助技術各論 I	○	◎					○			
精神保健福祉援助技術各論 II	○	◎					○			
こども福祉基盤科目	初年次演習 I		◎						○	
	初年次演習 II		◎						○	
	こども福祉基礎演習 I		◎		○					
	こども福祉基礎演習 II		◎		○			○		
	人間福祉論		◎		○			○		
	保育原理 I	◎			○			○		
	保育原理 II		◎			○			○	
	教育原理		○			◎			○	
	こどもの心理学 I	◎		○			○			
	こどもの心理学 II	◎		○			○			
	乳児保育 I	○			◎			○		
	乳児保育 II		○				○			◎
	障害児保育 I	◎				○			○	
	障害児保育 II	◎					○			○
	相談援助			○			◎			○
	家庭支援論				○	◎	○			
社会的養護	○			○			◎			
社会的養護内容	○			○				◎		

授業科目の区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		こども福祉学科のディプロマポリシー								
		1			2			3		
		こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		
専門科目Ⅰ群	こどもの保健ⅠA	◎				○		○		
	こどもの保健ⅠB	◎				○		○		
	こどもの保健Ⅱ			○			○		◎	
	こどもの食と栄養Ⅰ		○			◎		○		
	こどもの食と栄養Ⅱ			◎			○			
	こどもと健康			◎		○			○	
	こどもと人間関係		○			○		○	◎	
	こどもと環境	○		◎						
	こどもと言葉	○		○		○			◎	
	こどもと音楽表現			○					◎	
	こどもと身体表現		○	○					◎	
	こどもと言語表現			○			○		◎	
	こどもと音楽Ⅰ			○					◎	
	こどもと音楽Ⅱ			○					◎	
	こどもと造形Ⅰ			○					◎	
	こどもと造形Ⅱ			○					◎	
	こどもと造形Ⅲ			○					◎	
	こどもと運動Ⅰ			○					◎	
	こどもと運動Ⅱ			○					◎	
	こどもと数	◎		○						
	こどもと生活	○				◎		○		
	こども文化論Ⅰ		◎		○			○		
	こども文化論Ⅱ			○		○			◎	
こどもとメディア		○			◎			○		
国際こども文化論	◎			○			○			
専門教育科目	こども福祉専門演習Ⅰ		◎	○						
	こども福祉専門演習Ⅱ		◎	○						
	こども福祉卒業演習Ⅰ		◎	○						
	こども福祉卒業演習Ⅱ		◎	○						
	教師・保育者論		○			○			◎	
	保育課程総論	◎			○			○		
	保育内容総論		○			○			◎	
	保育・教職実践演習(幼稚園)			○			○		◎	
	教育心理学	○		◎						
	幼児理解	◎					○			
	青年心理学	◎					○			
	臨床心理学		◎				○		○	
	教育制度論				○			◎		
	教育方法論			○			○		◎	
	教育相談		◎				○			
	表現総合演習			○					◎	
	造形総合演習			○					◎	
	音楽教育			○					◎	
	こども音楽療育概論					◎		○		
	こども音楽療育演習			○			○		◎	
	こども音楽療育実習			○					◎	
	保育相談支援Ⅰ					◎	○			
	保育相談支援Ⅱ					◎	○			
	集団施設保育の現状と課題							○	◎	
	保育実習ⅠA		○						◎	
	保育実習ⅠB		○						◎	
	保育実習Ⅱ		○						◎	
	保育実習Ⅲ		○						◎	
保育実習指導ⅠA			○			○	◎			
保育実習指導ⅠB			○			○	◎			
保育実習指導Ⅱ			○			○	◎			
保育実習指導Ⅲ			○			○	◎			
教育実習指導			○			○	◎			
教育実習		○						◎		
発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ			○			◎		○	
	子育て支援地域活動Ⅱ			○			◎		○	
	児童館の機能と運営			○		○		◎		
	発達障害児への支援			○			◎		○	
	児童の貧困と虐待	○						◎		
	児童の健全育成と福祉		○				◎		○	
	少子高齢社会とこどもの生活	○						◎		
	施設保育士論			○			○		◎	
	男女共同参画社会の構築	○			○				◎	
	福祉経営実践演習				○			○	◎	
	消費者教育			○	○		◎			
	こども福祉特論					○			◎	

こども福祉学科カリキュラムマップ(平成26年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○									
		こども福祉学科のディプロマポリシー									
		1			2			3			
		こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3			
こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			
社会福祉基盤科目	生涯学習論	○		◎							
	生涯発達心理学 I	◎	○		○						
	社会福祉 I		◎		○			○			
	社会福祉 II		◎		○			○			
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I							○		◎	
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II							○		◎	
	ソーシャルワークの理論と実践 I			◎				○			
	ソーシャルワークの理論と実践 II			◎				○			
	児童家庭福祉		◎		○			○			
	低所得者に対する支援と生活保護制度		◎		○			○			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		○		◎			○	○		
	高齢者に対する支援と介護保険制度 II		○		◎			○	○		
	介護概論		○		○				◎		
	加齢及び障害に関する理解		◎			○					
	障害者福祉論		◎			○					
	権利擁護と成年後見制度		◎					○			
	地域福祉の理論と方法 I							◎		○	
	福祉行財政と福祉計画				◎			○			
	福祉サービスの組織と経営				○			◎			
	社会保障論 I		○					◎			
	社会保障論 II		○					◎			
	国際福祉論		○					◎			
	社会調査の基礎		○					◎			
	社会調査の応用		○							◎	
	心理検査法	○		◎							
	精神保健福祉論	○					◎				
精神医学 I	◎	○									
精神保健学 I	◎	○									
精神保健福祉援助技術各論 I	○	◎					○				
精神保健福祉援助技術各論 II	○	◎					○				
専門教育科目	初年次演習 I		◎					○			
	初年次演習 II		◎					○			
	こども福祉基礎演習 I		◎		○						
	こども福祉基礎演習 II		◎		○			○			
	人間福祉論		◎		○			○			
	保育原理 I	◎			○			○			
	保育原理 II		◎			○			○		
	教育原理		○			◎			○		
	こどもの心理学 I	◎		○			○				
	こどもの心理学 II	◎		○			○				
	乳児保育 I	○			◎			○			
	乳児保育 II		○				○		◎		
	障害児保育 I	◎				○			○		
	障害児保育 II	◎					○		○		
	相談援助			○			◎		○		
	家庭支援論				○	◎	○				
	社会的養護	○			○			◎			
	社会的養護内容	○			○				◎		
	専門科目 I 群	こどもの保健 I A	◎				○		○		
		こどもの保健 I B	◎				○		○		
こどもの保健 II				○			○		◎		
こどもの食と栄養 I			○			◎		○			
こどもの食と栄養 II				◎			○				
こどもと健康				◎		○			○		
こどもと人間関係			○			○		○	◎		
こどもと環境		○		◎							
こどもと言葉		○		○		○			◎		
こどもと音楽表現				○					◎		
こどもと身体表現			○	○					◎		
こどもと言語表現				○			○		◎		
こどもと音楽 I				○					◎		
こどもと音楽 II				○					◎		
こどもと造形 I				○					◎		
こどもと造形 II				○					◎		
こどもと造形 III				○					◎		
こどもと運動 I				○					◎		
こどもと運動 II				○					◎		
こどもと数		◎		○							
こどもと生活	○				◎		○				
こども文化論 I		◎		○			○				
こども文化論 II			○		○			◎			
こどもとメディア		○			◎		○				
国際こども文化論	◎			○			○				

授業科目の区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		こども福祉学科のディプロマポリシー								
		1			2			3		
		こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を实践する力		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を实践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を实践するためのスキルを獲得する		
専門教育科目	こども福祉専門演習Ⅰ		◎	○						
	こども福祉専門演習Ⅱ		◎	○						
	こども福祉卒業演習Ⅰ		◎	○						
	こども福祉卒業演習Ⅱ		◎	○						
	教師・保育者論		○			○			◎	
	保育課程総論	◎			○			○		
	保育内容総論		○			○			◎	
	保育・教職実践演習(幼稚園)			○			○		◎	
	教育心理学	○		◎						
	児童心理学	◎					○			
	青年心理学	◎					○			
	臨床心理学		◎				○		○	
	教育制度論				○			◎		
	教育方法論			○			○		◎	
	教育相談		◎				○			
	表現総合演習			○					◎	
	造形総合演習			○					◎	
	音楽教育			○					◎	
	こども音楽療育概論					◎		○		
	こども音楽療育演習			○			○		◎	
	こども音楽療育実習			○					◎	
	保育相談支援Ⅰ					◎	○			
	保育相談支援Ⅱ					◎	○			
	集団施設保育の現状と課題							○	◎	
	保育実習ⅠA		○						◎	
	保育実習ⅠB		○						◎	
	保育実習Ⅱ		○						◎	
	保育実習Ⅲ		○						◎	
	保育実習指導ⅠA			○			○	◎		
	保育実習指導ⅠB			○			○	◎		
保育実習指導Ⅱ			○			○	◎			
保育実習指導Ⅲ			○			○	◎			
教育実習指導			○			○	◎			
教育実習		○						◎		
発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ			○		◎		○		
	子育て支援地域活動Ⅱ			○		◎		○		
	児童館の機能と運営			○	○		◎			
	発達障害児への支援			○		◎		○		
	発達と疾病・障害Ⅰ	◎				○				
	発達と疾病・障害Ⅱ	◎				○				
	こころからのしきみⅠ	◎				○				
	こころからのしきみⅡ	◎				○				
	児童の貧困と虐待	○				○	◎			
	児童の健全育成と福祉		○			◎		○		
	少子高齢社会とこどもの生活	○				○	◎			
	施設保育士論			○		○	◎			
	男女共同参画社会の構築	○			○			◎		
	福祉経営実践演習				○		○	◎		
	消費者教育			○	○	◎				
	こども福祉特論					○		◎		
	児童福祉実習指導			○		○	◎			
	児童福祉実習Ⅰ		○					◎		
児童福祉実習Ⅱ		○					◎			

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1			2				3							
自己を認識し、他者を理解し、思いやる心と志をもって社会で生き抜く力			経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、とむに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力							
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
英語の基礎	英語の応用	英語のコミュニケーション	英語のプレゼンテーション	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉	英語の交渉

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

科目名	担当者氏名	授業方法	単位	選択区分	開講年次
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			2	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-4 ビジネス 基礎力 ○ 3-1 キャリア 形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用	
《授業の概要》				《テキスト》	
《授業の到達目標》				《参考図書》	
《成績評価の方法》				《授業時間外学習》	
《授業計画》				《備考》	
週	テーマ (全角22文字)	学習内容など			
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

<ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

<ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。

そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

Y	こども福祉学科
---	---------

詳細②③④：科目の位置づけ

② ③	
F	— 社会福祉基盤科目
K	— こども福祉基盤科目
S	— 専門科目 I 群・II 群
H	— 発展科目
B	A 基礎科目
H	U 教養科目 (人文)
S	O 教養科目 (社会)
N	A 教養科目 (自然)
L	A 教養科目 (語学)
P	H 教養科目 (体育)
C	A 教養科目 (キャリア)

④	
L	講義
S	演習
F	実習
P	実技

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

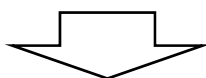
1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

001～

例えば、「生涯学習論」という科目には、<YF__L21007>というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → こども福祉学科「Y」
詳細②：科目の位置づけ → 社会福祉基盤科目「F」
詳細③：科目の位置づけ → —
詳細④：科目の位置づけ → 講義科目「L」
詳細⑤：履修区分 → 選択科目「2」
詳細⑥：学年レベル → 1年生相当「1」
詳細⑦：通し番号 → 通し番号「007」



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	こども福祉学科	社会福祉基盤科目	—	講義科目	選択科目	1年生相当	通し番号
ナンバー	Y	F	—	L	2	1	007

生涯福祉部こども福祉学科

【卒業要件単位数】

■平成 26～25 (2014～2013) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		10 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	社会福祉基盤科目	14 単位	12 単位	6 科目
	こども福祉基盤科目	20 単位	16 単位	8 科目
	専門科目Ⅰ群	30 単位	6 単位	3 科目
	専門科目Ⅱ群	30 単位	12 単位	6 科目
	発展科目	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		26 単位	—	—
合計		130 単位	56 単位	21 科目

【幼稚園教諭一種免許取得について】

「教育職員免許法」及び「同法施行規則」では、「教科に関する科目」を 6 単位、「教職に関する科目」を 35 単位、「教科又は教職に関する科目」を 10 単位、合計 51 単位の修得が定められています（修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」に充当されます）。

こども福祉学科幼児教育コースにおいて、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次の科目の単位を修得しなければなりません。

幼稚園教諭一種免許	66 条の 6 に定める科目	9 単位以上
	教科に関する科目	22 単位以上
	教科又教職に関する科目	10 単位以上
	教職に関する科目	39 単位

(66 条の 6 に定める科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める 修得単位数
				必修	選択	
66 条の 6 に定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法		2	2 単位必修
	体育	2	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)		2	2 単位必修
			健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)		1	いずれか 1 単位必修
			健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)		1	
	外国語コミュニケーション	2	英語	2		2 単位必修
情報機器の操作	2	コンピュータ演習	2		2 単位必修	

※ 必修科目 4 単位のほか、「日本国憲法」[2 単位]、「健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)」[2 単位]、「健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)」[1 単位]又は「健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)」[1 単位]、合計 9 単位以上修得しなければならない。

(教科に関する科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める 修得単位数
				必修	選択	
教科に関する科目	国語	6	日本語(読解と表現)	2		必修科目 22 単位
	算数		こどもと数	2		
	生活		こどもと生活	2		
	音楽		こどもと音楽Ⅰ	2		
			こどもと音楽Ⅱ	2		
			こどもと音楽Ⅲ	2		
			こどもと音楽Ⅳ		●2	
	図画工作		こどもと造形Ⅰ	2		
			こどもと造形Ⅱ	2		
			こどもと造形Ⅲ	2		
			こどもと造形Ⅳ		●2	
	体育		こどもと運動Ⅰ	2		
こどもと運動Ⅱ		2				

(教科又は教職に関する科目)

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得 単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が 定める 修得単位数
			必修	選択	
教科又は教職に関する科目	10	こどもの心理学Ⅰ	2		必修科目 8単位 (※1)
		こどもの心理学Ⅱ		●1	
		こども文化論Ⅰ		●2	
		こども文化論Ⅱ		●1	
		青年心理学		●2	
		表現総合演習		●1	
		造形総合演習		●1	
		音楽教育	2		
		発達障害児への支援		●2	
		幼児のための福祉教育Ⅰ	2		
		幼児のための福祉教育Ⅱ	2		

(※1)「教科又は教職に関する科目」の選択科目又は「教科に関する科目」の選択科目から、4単位以上修得しなければならない。(「教科又は教職に関する科目」又は「教科に関する科目」の●印の単位から4単位以上修得しなければならない。)

(教職に関する科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分等	最低修得 単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が 定める 修得 単位数	
				必修	選択		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等 	2	教師・保育者論	2		39 単 位 必 修
	教職の基本理念に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 	6	教育原理	2		
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 		教育心理学	2		
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 		教育制度論	2		
	教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 	18	保育課程総論	2		
		<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の指導法 		保育内容総論	2		
				こどもと健康	2		
				こどもと人間関係	2		
				こどもと環境	2		
				こどもと言葉	2		
				こどもと音楽表現	2		
				こどもと身体表現	2		
				こどもと言語表現	2		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 		教育方法論		2			
生徒指導教育相談及び進路指導等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解の理論及び方法 	2	幼児理解	2			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 		教育相談	2			
教育実習		5	教育実習指導	1			
			教育実習	4			
教職実践演習		2	保育・教職実践演習 (幼稚園)	2			

【保育士資格取得について】

こども福祉学科において、保育士資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、「児童福祉法施行規則」に定められている次の科目の単位を修得しなければなりません。

保育士資格	教養科目	8 単位以上
	必修科目	63 単位
	選択必修科目	9 単位以上

(教養科目)

系列	児童福祉法施行規則告示による教科目		指定 単位数	こども福祉で 開設している授業科目名		開設単位数		本学が 定める 修得単位数
	教科目	授業 形態		選択 必修	授業科目	授業 形態	必修	
教養科目	外国語、体育以外の 科目	不問	6 単 位 以 上 開 設	日本語（読解と表現）	演習	2		8 単 位 以 上 必 修
				コンピュータ演習	演習	2		
				宗教と人生	講義	2		
				生命倫理学	講義		2	
				哲学	講義		2	
				文学	講義		2	
				仏教と現代社会	講義		2	
				国際理解と宗教Ⅰ （キリスト教）	講義		2	
				国際理解と宗教Ⅱ （イスラム教）	講義		2	
				色彩とデザイン	講義		2	
				法と社会	講義		2	
				日本国憲法	講義		2	
				人権の歴史	講義		2	
				政治学	講義		2	
				社会学	講義		2	
				経済学	講義		2	
	生物学	講義		2				
	食と健康	講義		2				
	私のための キャリア設計	講義		2				
	外国語	演習	2 単位 以上	英語	演習	2		
実用英語（初級）				演習		2		
実用英語（中級）				演習		2		
中国語（初級）				演習		2		
中国語（中級）				演習		2		
体育	講義	1	健康・スポーツ科学Ⅰ （講義）	講義		△2	2 単位必修	
	実技	1	健康・スポーツ科学Ⅱ （実技）	実技		△1	いずれか 1 単位必修	
			健康・スポーツ科学Ⅲ （実技）	実技		△1		
合 計（開設単位数）			10 単位 以上	合 計		52 単位	11 単位 以上	

※ 必修科目 8 単位のほか、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」[2 単位]、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」[1 単位] 又は「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」[1 単位] から、合計 11 単位以上修得しなければならない。

(必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示別表第1による教科目		指定 単位数	こども福祉学科で 開設している授業科目名		開設単位数		本学が 定める 修得 単位数
	教科目	授業 形態	必修	授業科目	授業 形態	必修	選択	
保育の本 質・目的 に関する 科目	保育原理	講義	2	保育原理 I	講義	2		63 単 位 必 修
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉 I	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		△1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		△2	
保育の対 象の理解 に関する 科目	保育の心理学 I	講義	2	こどもの心理学 I	講義	2		
	保育の心理学 II	演習	1	こどもの心理学 II	演習		△1	
	子どもの保健 I	講義	4	こどもの保健 I A	講義		△2	
				こどもの保健 I B	講義		△2	
	子どもの保健 II	演習	1	こどもの保健 II	演習		△1	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養 I	演習		△1	
				こどもの食と栄養 II	演習		△1	
家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		△2		
保育の内 容・方法 に関する 科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		△2	
	保育内容演習	演習	5	こどもと健康	演習		△2	
				こどもと人間関係	演習		△2	
				こどもと環境	演習		△2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育 I	演習		△1	
				乳児保育 II	演習		△1	
	障害児保育	演習	2	障害児保育 I	演習		△1	
				障害児保育 II	演習		△1	
社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		△1		
保育相談支援	演習	1	保育相談支援 I	演習		△1		
保育の表 現技術	保育の表現技術	演習	4	こどもと音楽表現	演習		△2	
				こどもと身体表現	演習		△2	
				こどもと言語表現	演習		△2	
				こどもと音楽 I	演習	2		
				こどもと造形 I	演習	2		
保育実習	保育実習 I	実習	4	保育実習 I A	実習		△2	
				保育実習 I B	実習		△2	
	保育実習指導 I	演習	2	保育実習指導 I A	演習		△1	
				保育実習指導 I B	演習		△1	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		△2	
合 計			51	合 計		63		

※ 必修科目 20 単位、選択科目 43 単位 (△がある科目すべて)、合計 63 単位修得しなければならない。

(選択必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示別表第2による教科目		指定 単位数	こども福祉学科で 開設している授業科目名		開設単位数		備考	
	教科目	授業 形態	選択 必修	授業科目	授業 形態	必修	選択		
保育の本質・目的に関する科目			15 単 位 以 上 開 設	保育原理Ⅱ	講義		2	6 単 位 以 上 必 修	
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学	講義		2		
				幼児理解	講義		2		
				青年心理学	講義		2		
				臨床心理学	講義		2		
				教育相談	講義		2		
保育の内容・方法に関する科目									
保育の表現技術	保育の表現技術	演習			こどもと音楽Ⅱ	演習			2
					こどもと造形Ⅱ	演習			2
					こどもと造形Ⅲ	演習			2
				こどもと運動Ⅱ	演習		2		
				音楽教育	演習		2		
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		▲2	いずれか 2単位必修	
				保育実習Ⅲ	実習		▲2		
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		▲1	いずれか 1単位必修	
				保育実習指導Ⅲ	演習		▲1		
合 計 (開設単位数)			18単位 以上	合 計		22 単位		9 単位 以上	

※ 「保育実習Ⅱ」[2単位]と「保育実習指導Ⅱ」[1単位]又は、「保育実習Ⅲ」[2単位]と「保育実習指導Ⅲ」[1単位]の3単位を修得するとともに、それ以外の選択必修科目から6単位以上、合計9単位以上修得しなければならない。

【こども音楽療育士について】

こども福祉学科において、こども音楽療育士の資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次に示す必修科目及び選択科目を合わせて20単位以上の単位を修得しなければなりません。

こども音楽療育士	必修科目	4単位
	選択科目	16単位以上

区分	履修すべき科目		単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名		開設単位数		本学が定める修得単位数
	教科目	授業形態		授業科目	授業形態	必修	選択	
必修科目	こども音楽療育概論	講義	2	こども音楽療育概論	講義		☆2	2単位
	こども音楽療育演習	演習	1	こども音楽療育演習	演習		☆1	1単位
	こども音楽療育演習	実習	1	こども音楽療育演習	実習		☆1	1単位
選択科目	I群 「障害児及び心理」関連分野	4単位以上	障害者福祉論	講義		★2	I群から4単位以上、II群から2単位以上、III群から4単位以上、計16単位以上	
			心理検査法	講義		★2		
			こどもの心理学I	講義	2			
			こどもの心理学II	演習		★1		
			障害児保育I	演習		★1		
			障害児保育II	演習		★1		
			発達障害児への支援	演習		★2		
			教育心理学	講義		★2		
			幼児理解	講義		★2		
			青年心理学	講義		★2		
	臨床心理学	講義		★2				
	II群 「保健」関連分野	2単位以上	こどもの保健I A	講義		★2		
			こどもの保健I B	講義		★2		
			こどもの保健II	演習		★1		
	III群 「音楽」関連分野	2単位以上	こどもと音楽表現	演習		★2		
こどもと音楽I			演習	2				
こどもと音楽II			演習		★2			
音楽教育			演習		★2			
合計						36単位	20単位以上	

※ 必修科目4単位、選択科目4単位（☆がある科目すべて）を修得し、かつ、I群から4単位以上、II群から2単位以上、III群から4単位以上、計16単位修得しなければならない。

【児童厚生一級指導員について】

こども福祉学科において、児童厚生一級指導員の資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次に示す必修科目及び選択科目を合わせて 20 単位以上の単位を修得しなければなりません。さらに、保育士資格取得見込であることが必要となります。

児童厚生一級指導員	資格指定科目	41単位以上
	ただし、児童館実習（20日間）を修得の場合	34単位以上

資格指定科目	単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める修得単位数
			必修	選択	
児童の健全育成と福祉	2	児童の健全育成と福祉		<input type="checkbox"/> 2	2 単位
児童館の機能と運営 (児童クラブを含む)	2	児童館の機能と運営		<input type="checkbox"/> 2	2 単位
児童館の活動内容と指導法 (児童クラブを含む) 文化・表現活動、 運動・野外活動、 子育て支援、等	4	保育内容総論		<input type="checkbox"/> 2	5 単位以上 必修
		こどもと健康		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと人間関係		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと環境		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと言葉		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
	4	こどもと音楽表現		<input checked="" type="checkbox"/> 2	4 単位以上 必修
		こどもと身体表現		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと言語表現		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと音楽 I	2		
		こどもと造形 I	2		
	4	こどもと運動 I	2		7 単位
		社会的養護		<input type="checkbox"/> 2	
		障害児保育 I		<input type="checkbox"/> 1	
		障害児保育 II		<input type="checkbox"/> 1	
		保育相談支援 I		<input type="checkbox"/> 1	
児童福祉援助技術	2	相談援助		<input type="checkbox"/> 1	3 単位
		家庭支援論		<input type="checkbox"/> 2	
地域福祉 I 地域福祉論 II コミュニティワーク演習	4 (2)	地域福祉の理論と方法 I		<input type="checkbox"/> 2	4 単位
	(2)	子育て支援地域活動 II		<input type="checkbox"/> 2	
児童館実習 (児童クラブを含み 20 日間)	4	保育実習 I A		<input type="checkbox"/> 2	11 単位 又は 児童館実習 (20 日間) 4 単位 (*)
		保育実習 I B		<input type="checkbox"/> 2	
		保育実習指導 I A		<input type="checkbox"/> 1	
		保育実習指導 I B		<input type="checkbox"/> 1	
		保育実習 III		<input type="checkbox"/> 2	
		保育実習指導 III		<input type="checkbox"/> 1	
		児童館実習 (10 日間) (*)		<input type="checkbox"/> 2	
合計	18	合計	51 単位	41 単位以上 (34 単位以上)	

※ (*) の「児童館実習 (10日間)」及び「児童館実習 (20日間)」については、資格関連科目のため、単位を修得しても卒業要件単位には含まれない。

平成 26～25（2014～2013）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成26年度（2014年度）入学生対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	学科		幼児教育コース					児童福祉コース					学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成26年度の担当者	ページ			
				単位数		単位数	幼一 種	保 育 士	こども 療 育 士	こども 音楽	児童 厚生 一級	単位数		保 育 士	こども 療 育 士	こども 音楽	児童 厚生 一級	1年		2年		3年				4年		
				必修	選択							必修	選択					必修	選択	I	II	I	II			I	II	I
基礎科目	日本語（読解と表現）	YBAS11001	演習	2	2	2	◇	●					2	●			2									安井 重雄	28	
	英語	YBAS11002	演習	2	2	2	◇	○					2	○			2									(平本 幸治)	29	
	コンピュータ演習	YBAS11003	演習	2	2	2	◇	●					2	●			2									(西田 悦雄)	30	
教養科目	宗教と人生	YHUL11001	講義	2	2	2		●					2	●				2								(本多 彩)	31	
	生命倫理学	YHUL11002	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[未定]	32	
	哲学	YHUL11003	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[三浦 摩美]	33	
	文学	YHUL11004	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				安井 重雄	34	
	仏教と現代社会	YHUL21005	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				(本多 彩)	35	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	YHUL21006	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[塚本 潤一]	36	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	YHUL21007	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[重親 知左子]	37	
	色彩とデザイン	YHUL21008	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[浜島 成嘉]・(稲富 恭)	38	
	法と社会	YSOL21009	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[國友 順市]	39	
	日本国憲法	YSOL21010	講義	2	2	2	◇	●					2	●				②		②		②				[笹田 哲男]	40	
	人権の歴史	YSOL21011	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[仲尾 孝誠]	41	
	政治学	YSOL21012	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				斎藤 正寿	42	
	社会学	YSOL21013	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				(吉原 恵子)	43	
	経済学	YSOL21014	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				(石原 敬子)	44	
	生物学	YNAL21015	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[未定]	45	
	食と健康	YNAL21016	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				(嶋津 裕子)	46	
	実用英語（初級）	YLAS21017	演習	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[加藤 恭子]	47	
	実用英語（中級）	YLAS22018	演習	2	2	2		●					2	●					②		②		②					
	中国語（初級）	YLAS21019	演習	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[佟 曉寧]	49	
	中国語（中級）	YLAS21020	演習	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[佟 曉寧]	50	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	YPHL21021	講義	2	2	2	◇	○					2	○					②		②		②			(三宅 一郎)	51	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	YPHP21022	実技	1	1	1	◆	○					1	○				②		②		②				(矢野 琢也)	52	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	YPHP21023	実技	1	1	1		○					1					②		②		②				(矢野 琢也)	53	
	私のためのキャリア設計	YCAL21024	講義	2	2	2		●					2	●				②		②		②				[三上 嘉代子]	54	

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、配当学年の指定はなく、1～4年のいずれの学年でも登録、履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	学科		幼児教育コース				児童福祉コース				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成26年度の担当者	ページ						
			単位数		単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	1年		2年		3年		4年											
			必修	選択							必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択			必修	選択				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	I	II	I	II	I	II	I	II										
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		2		◇	●			2		●			2												
	英語	演習	2		2		◇	○			2		○			2												
	コンピュータ演習	演習	2		2		◇	●			2		●			2												
教養科目	宗教と人生	講義	2		2			●			2		●				2											
	生命倫理学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[未定]	32	
	哲学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[三浦 摩美]	33	
	文学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		安井 重雄	34	
	仏教と現代社会	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		(本多 彩)	35	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[塚本 潤一]	36	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[重親 知左子]	37	
	色彩とデザイン	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[浜島 成嘉]・(稲富 恭)	38	
	法と社会	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[國友 順市]	39	
	日本国憲法	講義		2		2		◇	●			2		●				②		②		②		②		[笹田 哲男]	40	
	人権の歴史	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[仲尾 孝誠]	41	
	政治学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		斎藤 正寿	42	
	社会学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		(吉原 恵子)	43	
	経済学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		(石原 敬子)	44	
	生物学	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[未定]	45	
	食と健康	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		(嶋津 裕子)	46	
	実用英語（初級）	演習		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[加藤 恭子]	47	
	実用英語（中級）	演習		2		2			●			2		●					②		②		②		②		[加藤 恭子]	48
	中国語（初級）	演習		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[佟 曉寧]	49	
	中国語（中級）	演習		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[佟 曉寧]	50	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2		2		◇	○			2		○				②		②		②		②		(三宅 一郎)	51		
健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1		1			◆	○			1		○				②		②		②		②		(矢野 琢也)	52	
健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1		1				○			1		○				②		②		②		②		(矢野 琢也)	53	
私のためのキャリア設計	講義		2		2			●			2		●				②		②		②		②		[三上 嘉代子]	54		

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、配当学年の指定はなく、1～4年のいずれの学年でも登録、履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	YBAS11001
担当者氏名	安井 重雄		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	YBAS11002
担当者氏名	平本 幸治		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	YBAS11003
担当者氏名	西田 悦雄			
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際して、その利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え、活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配布します。

《参考図書》

小柳・小野・平井・宮本編著(教師を目指す人のための)「教育方法・技術論」学芸図書,2012 など。
必要に応じて適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから、配付資料を熟読し理解を深めて下さい。
課題作成は授業時間内を基本としていますが、不足分は時間外学習で対応してください。

《備考》

「便利な文房具や道具」としてのコンピュータの積極的な利用を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windows, 電子メール	Windowsのパスワード変更, 電子メールの概要と活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法, 検索サイト, 情報化の光と影
4	文書作成(1)	ワードプロセッサソフトの基本知識・操作
5	文書作成(2)	Webブラウザとの連携(検索エンジンを利用した情報検索/収集)
6	文書作成(3)	Webブラウザとの連携, 情報の引用, 参照のつけ方, 文書作成
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの基本知識, セル, 罫線, 表組の活用, 基本的な関数の活用
8	表計算ソフト(2)	グラフ描画方法, 有効なグラフの形状
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基本知識, 発表テーマの設定と作成
10	プレゼンテーションソフト(2)	アニメーションとデザインの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表, レポート, 課題作成のための実践...テーマ設定
12	総合的な演習(2)	レポート, 課題作成のための実践...表計算ソフトとワープロソフトの連携
13	総合的な演習(3)	レポート, 課題作成のための実践...表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携
14	総合的な演習(4)	レポート, 課題作成のための実践...見栄えする資料作成のコツ
15	総合的な演習(5)	まとめ...総合的な演習とその他補足

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	YHUL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の仏教を知る	身近にあるさまざまな仏教を取りあげて日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神に関連の深い仏教の教えを理解することを目指す
14	日本の仏教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	YHUL11002
担当者氏名	未定		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまで人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちが医療技術の進歩に合わせて考え方をえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
 (内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《テキスト》

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹(編)、世界思想社、1998

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学	科目ナンバリング	YHUL11003
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

哲学の主要テーマである真理と知識の問題について概説し、哲学的思考の特徴と、私達の持ち得る多様な知識の特徴を把握する。それを基に、多様な知識に共通する特徴的な2つの立場、自然主義的知識と反自然主義的知識の立場が、信念と知識、言語、意図と行為、心身問題といった事柄において、私達にどのような問題を投げかけているか把握できるようにしたい。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにしたい。
- ・人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにし、心身問題・言語・意図と行為にまつわる問題について理解できるようにする。
- ・粘り強く考察できるようにする。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。
- ・レポートをまとめる。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	ガイダンス 「哲学」の起源および定義について
2	哲学とは何か	古代自然哲学から近代の知識論へ
3	知識に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
4	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
5	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
6	ア・プリオリな知識の問題	知識論におけるプラトニズム・心理主義について
7	ア・プリオリな知識の問題	知識論における規約主義について
8	ア・ポステリオリな知識の問題	素朴实在論・表象主義的实在論について
9	ア・ポステリオリな知識の問題	観念論と科学的实在論について
10	ア・ポステリオリな知識の問題	基礎付け主義と整合説について
11	心身問題における自然主義と反自然主義	心の現象と志向性の問題について
12	心身問題における異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
13	意図と行為の問題	行為についての自然主義的解釈と古典的意志論について
14	意図と行為の問題	意図と行為の因果説・反因果説について
15	予備およびまとめ	哲学と言語の問題について、これまでの議論の特徴について

科目名	文学	科目ナンバリング	YHUL11004
担当者氏名	安井 重雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、それに触れる人間の心を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び近代・現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味、また作品のテーマについて考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点(40%)、及び、定期試験(60%)によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部の、主人公光源氏がさまざまな困難を乗り越え、栄華に至るまでの物語を解説し、その一部を読む。
3	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第二部の、主人公光源氏が思いもよらぬ結婚を引き受けることから起こる苦悩と紫の上の死に至る物語を解説し、その一部を読む。
4	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が浮舟をめぐる争う恋のはかなさの物語を解説し、その一部を読む。
5	『枕草子』を読む	清少納言が藤原定子とその宮廷を賛美して執筆した随筆『枕草子』を読む。
6	『大鏡』を読む	平安時代最盛期を現出した藤原道長の権力獲得過程を物語によって描く『大鏡』を読み、当時の歴史と文学意識について考える。
7	平安時代の和歌を読む	『百人一首』の成り立ちと、その歌を味読することで、和歌という言語表現について考える。
8	平安時代の和歌を読む	『百人一首』のそれぞれの歌が詠まれた背景を知ること、和歌の深みに触れる。
9	『徒然草』を読む	鎌倉時代から南北朝期を生きた兼好法師の随筆『徒然草』を読み、人事・自然への多様な見方について考える。
10	近代小説を読む	古典文学を材料として執筆された、芥川龍之介や菊池寛などの小説を、原典の古典と比較しながら読む。
11	近代小説を読む	古典文学を材料として執筆された、芥川龍之介や菊池寛などの小説を、原典の古典と比較しながら読む。
12	近代小説を読む	古典文学を材料として執筆された、芥川龍之介や菊池寛などの小説を、原典の古典と比較しながら読む。
13	現代小説を読む	現代の大学生、あるいは就職活動などをテーマとした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代の大学生、あるいは就職活動などをテーマとした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と近代・現代小説についてふりかえり、言葉やテーマについて考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	YHUL21005	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習い・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

科目名	国際理解と宗教 (キリスト教)		科目ナンバリング	YHUL21006
担当者氏名	塚本 潤一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次の講義に提出する復習レポート(60%)、および期末レポート(40%)を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ(1)	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ(2)	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ(3)	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ(1)	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ(2)	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ(3)	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態を続けるのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

《テキスト》

プリント(毎授業ごとに配布する)

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著(PHP研究所)2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸(講談社現代新書)2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著(日本キリスト教団出版局)2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著(日本キリスト教団出版局)2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポート(400文字相当)をまとめ、次の授業に提出する。レポート用紙は授業ごとに配布する。
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)		科目ナンバリング	YHUL21007
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク(イスラームの礼拝所)も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事等も利用して、具体的なイメージの把握に役立つ。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『世界史の中のパレスチナ問題』講談社、2013/
 大川玲子『イスラーム化する世界 グローバリゼーション時代の宗教』平凡社、2013/
 小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/
 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/
 レザー・アスラン『変わるイスラーム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ(例：モスク見学)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色①色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色②色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色③配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。(担当:稲富)
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。(担当:稲富)
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	YSOL21009
担当者氏名	國友 順市		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	YSOL21010
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	YSOL21011
担当者氏名	仲尾 孝誠		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは、被差別の側から告発されて発達してきた歴史をもつ思想である。被差別の現実を見失うと、ただの自己肯定に墜してしまう。そこで、本講義では、様々な被差別の現実学ぶことを通じて、人権の意義、人間の意識の鈍感さ・冷酷さ、そして素晴らしさに触れたい。さらに、差別撤廃、人権擁護のための制度が、どのように獲得されてきたのか、また現在、どのようになっているのかも見ていきたい。

《授業の到達目標》

三つのスローガン＝常識の変革・想像力の開発・根をもつこと社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになります。差別を見抜く力を身につけましょう。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

世界人権問題研究センター 『人権歴史年表』 山川出版社

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自学習し、質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験（80％）、レポート（20％）

《備考》

出席を重視しますが、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	授業の概要説明。人権に関するアンケートの実施。
2	消費と人権	消費生活と自分の人権についてふりかえる。
3	国家権力と人権	国家権力がかつてどのように情報操作を行い、集団殺人を行ったか。戦争・イデオロギー政策・人権差別等を通して考える。
4	国家権力と人権	国家権力がかつてどのように情報操作を行い、集団殺人を行ったか。戦争・イデオロギー政策・人権差別等を通して考える。
5	差別意識 - 差別意識は作られ操作される	人間は、生まれた時には偏見をもっていない。社会にある偏見を身近な人から知らず知らず身につける。その過程を学ぶ。
6	日本の差別 - 差別の源流と人権	日本の歴史のなかで差別意識がどのように形成されてきたのか。特に、女人禁制・部落差別を通して学ぶ。
7	部落差別と部落解放の思想	日本の差別である部落差別はどのように形成されたのか、また、部落差別をなくす思想がどのように形成されたのか、をしてみる。
8	部落差別と部落解放の思想	日本の差別である部落差別はどのように形成されたのか、また、部落差別をなくす思想がどのように形成されたのか、をしてみる。
9	ハンセン病差別	世界で一番古くからある病ライ（ハンセン病）。国家によって強制隔離政策が続けられた事実と隔離政策撤廃の意義、その後の課題について学ぶ。
10	ハンセン病差別	世界で一番古くからある病ライ（ハンセン病）。国家によって強制隔離政策が続けられた事実と隔離政策撤廃の意義、その後の課題について学ぶ。
11	先住民族差別と人権 - ネイティブ・アメリカン	アメリカのネイティブ・アメリカンの歴史に学ぶことを通じて、アメリカの侵略思想について学ぶ。
12	先住民族差別と人権 - アイヌ	日本のアイヌの歴史に学ぶことを通じて、日本の侵略思想を問い、多民族国家・日本のあり方について学ぶ。
13	民族差別と人権 - 日系アメリカ人	アメリカの戦争中における日系人強制収容所の事実と日系アメリカ人補償法成立の運動を学ぶことを通じて、人権侵害と回復の歴史について学ぶ。
14	民族差別と人権 - 在日朝鮮・韓国人	日本における戦前の在日朝鮮・韓国人に対する植民地政策の事実と、戦後の運動について学ぶ。
15	まとめ - 国連と人権	世界人権について、国連の組織・制度について学ぶ。

科目名	政治学	科目ナンバリング	YSOL21012
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 <small>小さな政治と大きな政治</small>	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 <small>様々なアクター・利益</small>	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 <small>政党と選挙</small>	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	YSOL21013
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしきみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析 (5)予言の...成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(実施時期および内容について、適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(実施時期および内容について、適宜指示を行う)

科目名	経済学	科目ナンバリング	YSOL21014
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	生物学	科目ナンバリング	YNAL21015
担当者氏名	未定		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イロジ 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	YNAL21016
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。健全な食生活（めざすべき食生活）について自ら考える能力を身につけることをめざす。

《テキスト》

進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

「調理師読本」（社）日本栄養士会編 第一出版

《授業の到達目標》

基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、食の安全・安心に関する知識、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。

現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。

自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

ニュース、新聞などにより、健康や栄養に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

《備考》

授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食環境と食育	現代社会の食生活、食育、食育基本法、食育推進会議と食育推進基本計画（数値目標）等食環境と食育について理解する。
2	おいしさと科学	五味のしくみ、味覚の仕組みと味覚障害、五感で味わう、食事と脳等「おいしさと科学」について理解する。
3	おいしさと科学	おいしさと調理科学について理解する。
4	選食力	食材の選別法と食材の旬を理解し、選食力を修得する。
5	選食力	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
6	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
7	食の安全・安心	食品の流通・製造での安全安心（コールドチェーン、HACCP、トレーサビリティシステム）について理解する。
8	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
9	食事バランス	三大栄養素や微量栄養素等基礎知識を修得し、身体と食事の関係について理解する。
10	食事バランス	生活習慣病予防のためのバランスの良い食事や朝食の大切さ（朝食摂取状況）を理解する。
11	食事マナー	食事への向き合い方、食事の礼儀作法（箸）について理解する。
12	食の心理学	現代日本の食卓風景、中食、孤食、個食など食生活への心の影響を理解し、色と食事の関係を有効活用する。
13	日本と世界の食料事情	食料自給率や食品ロス（食品廃棄）を通して、日本および世界の食料事情を理解する。
14	日本と世界の食料事情	フードマイレージ、食とエコ等食と環境について理解する。
15	日本と世界の食育	今後、経済活動を展開していく上でキーワードとなる、食の伝承（和食、日本型食生活、伝統料理と郷土料理）や地産地消、スローフードなどの用語を理解する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）	科目ナンバリング	YLAS21017
担当者氏名	加藤 恭子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

Nagaki Kitayama & Bill Benfield 著
『TOEICテストへのファーストステップ』（成美堂）

《参考図書》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1: Transportation and Information	Reading / Listening の演習
2	UNIT 2 : Instructions and Explanations	Reading / Listening の演習
3	UNIT 3 : Eating and Drinking	Reading / Listening の演習
4	UNIT 4 : Business Scene	Reading / Listening の演習
5	UNIT 5 : Communication	Reading / Listening の演習
6	UNIT 6 : Socializing	Reading / Listening の演習
7	UNIT 7 : Invitation	Reading / Listening の演習
8	Review	Reading / Listening の演習
9	UNIT 8 : Medical Treatment and Insurance	Reading / Listening の演習
10	UNIT 9 : Culture and Entertainment	Reading / Listening の演習
11	UNIT 10 : Shopping	Reading / Listening の演習
12	UNIT 11: Sports and Exercise	Reading / Listening の演習
13	UNIT 12: Trouble and Claims	Reading / Listening の演習
14	Extra Test 1	Reading / Listening の演習
15	Extra Test 2	Reading / Listening の演習

科目名	実用英語（中級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活など、身近な話題に即した各テーマを取り上げ、その内容に応じたリスニング問題、リーディング問題の演習・解説を行うことによって、各パートの問題へのアプローチの仕方、各パートの効率的な解き方を身につける。実用英語（初級）での学習内容、または、それに相当する知識を基に、さらに進んだ語彙力の増強、文法事項の理解の定着をはかる。

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れ、授業で身につけた語彙力・文法力をベースに、スコア500～600を取ることを目標にする

《テキスト》

① 吉田佳代（他）著、実生活で役立つTOEIC® テストリスニング（成美堂）② 藪越知子／Braven Smillie 著、TOEIC® テスト・リーディング集中演習（金星堂）

《参考図書》

《授業時間外学習》

今回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に提出する提出物30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction&Listening / Reading対策	Listening対策 (Unit 1) / Reading (Unit 1:短文穴埋め問題の攻略①語彙の問題に慣れよう)
2	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit 2) / Reading (Unit 2&15:短文穴埋め問題の攻略②品詞&読解問題の攻略①タイトルと設問を先読みしてポイントをおさえよう)
3	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit3&4) / Reading (Unit 3&16:短文穴埋め問題の攻略③主語と一致する動詞&読解問題の攻略②設問の種類を分析しよう)
4	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit 5) / Reading (Unit 4&17:短文穴埋め問題の攻略④時制や仮定法の問題に慣れよう&読解問題の攻略③語句の言い換えに注意して答えを選ぼう)
5	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 6&7) / Reading (Unit 11:長文穴埋め問題の攻略①文章の流れを理解しよう (1) 時制)
6	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit 8) / Reading (Unit 5&18:短文穴埋め問題の攻略⑤自動詞・他動詞・使役動詞&読解問題の攻略④背景知識を使って答えを探そう Eメール・手紙)
7	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 9&10) / Reading (Unit 12:長文穴埋め問題の攻略②文章の流れを理解しよう (2) 代名詞)
8	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit 11) / Reading (Unit 6&19:短文穴埋め問題の攻略⑥不定詞・動名詞・分詞に慣れよう&読解問題の攻略⑤背景知識を使って答えを探そう 求人広告)
9	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 12&13) / Reading (Unit 20:読解問題の攻略 まとめ I)
10	Listening / Reading (Part 5&6対策)	Listening (Unit 14) / Reading (Unit 7&13:短文穴埋め問題の攻略⑦比較・関係詞の問題&長文穴埋め問題の攻略③文章の流れを理解しよう (3) つなぎ言葉)
11	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit 15&16) / Reading (Unit 8&21:短文穴埋め問題の攻略⑧前置詞・接続詞の問題&読解問題の攻略⑥ 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう (1))
12	Listening / Reading (Part 5&7対策)	Listening (Unit 17) / Reading (Unit 9&22:短文穴埋め問題の攻略⑨名詞・冠詞・数量詞の問題&読解問題の攻略⑦ 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう (2))
13	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 18&19) / Reading (Unit 23:読解問題の攻略⑧ 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう (3))
14	Listening / Reading (Part 5, 6&7 対策)	Listening (Unit 20) / Reading (Unit 10, 14&24 短文穴埋め問題の攻略まとめ、長文穴埋め問題の攻略まとめ&読解問題の攻略まとめ II)
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	YLAS21019
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	YLAS21020
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」・「中国語」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	健康・スポーツ科学（講義）	科目ナンバリング	YPHL21021
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（実技）		科目ナンバリング	YPHP21022
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力測定（事前）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（基礎技能）
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（基礎技能）
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（基礎技能）
6	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（応用技能）
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（応用技能）
8	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（応用技能）
9	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（試合形式）
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（試合形式）
11	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（試合形式）
12	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（ゲーム）
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（ゲーム）
14	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（ゲーム）
15	体力測定（事後）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

- 『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
- 『発達運動論』臼井永男、岡田修一（放送大学教育振興会）
- 『0～6歳子どもの発達と保育の本』河原紀子（Gakken）

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	YPHP21023
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

- 『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
- 『発達運動論』臼井永男、岡田修一（放送大学教育振興会）
- 『0～6歳子どもの発達と保育の本』河原紀子（Gakken）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

- <予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
- <復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力測定（事前）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（基礎技能）
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（基礎技能）
5	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（基礎技能）
6	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（応用技能）
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（応用技能）
8	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（応用技能）
9	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（試合形式）
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（試合形式）
11	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（試合形式）
12	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（ゲーム）
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（ゲーム）
14	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（ゲーム）
15	体力測定（事後）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	YCAL21024
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

この講義では、みなさんが学生生活の目的や目標を明確にし、それを実現するために必要な知識や考え方を学びます。さらに社会で求められる、コミュニケーションや課題解決能力等の養成にも取り組みます。

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて理論や演習を通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につけます。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)

《授業時間外学習》

テキストのねらい、予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて予習が必要です。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、ルール(マナー)
2	社会が求める人材とは	社会で求められる能力を知る
3	キャリア形成とは	大学時代のキャリア形成
4	キャリア形成とは	かなえたい夢について考える
5	自分自身を知る	現在の自己の全体像を知る
6	自分自身を知る	自我状態や対人関係の基本的な構えを知り自己理解を深める
7	自分自身を知る	自他評価を分析する
8	より良いコミュニケーションを築くために	相手の話しの内容を理解する聴く力を身につける
9	より良いコミュニケーションを築くために	さわやかな自己表現を身につける
10	より良いコミュニケーションを築くために	コンセンサスについて考える
11	相手を理解し、自分の考えを伝える	他者を理解する試みを体験しながら自己理解を深める
12	社会人基礎力を身につける	考え抜く力を身につける
13	社会人基礎力を身につける	考え抜く力を身につける
14	社会人基礎力を身につける	大学で何を学ぶか<事例研究>
15	まとめ	最終レポート

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成26年度（2014年度）入学生対象
 ()は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	学科		幼児教育コース				児童福祉コース				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成26年度の担当者	ページ							
				単位数		幼 一 種	保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単位数		保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1年		2年		3年		4年									
				必修	選択					必修	選択				必修	選択	I	II	I	II	I			II	I	II				
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	I	II	I	II	I	II			I	II					
専 門 福 祉 教 育 基 盤 目 録	生涯学習論	YF_L21007	講義		2	2						2																(吉原 恵子)	61	
	生涯発達心理学 I	YF_L21008	講義		2	2						2																	(森田 義宏)	62
	社会福祉 I	YF_L11001	講義	2	2							2																	田中 博一	63
	社会福祉 II	YF_L21009	講義	2	2							2																	田中 博一	64
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	YF_L12002	講義	2	2							2				2														
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	YF_L22010	講義	2	2							2					2													
	ソーシャルワークの理論と実践 I	YF_L22011	講義	4	4							4					4													
	ソーシャルワークの理論と実践 II	YF_L23012	講義	4	4							4						4												
	児童家庭福祉	YF_L11003	講義	2	2							2																	杉山 貴要江	65
	低所得者に対する支援と生活保護制度	YF_L22013	講義	2	2							2					2													
	高齢者に対する支援と介護保険制度 I	YF_L13004	講義	2	2							2						2												
	高齢者に対する支援と介護保険制度 II	YF_L23014	講義	2	2							2							2											
	介護概論	YF_L22015	講義	2	2							2					2													
	加齢及び障害に関する理解	YF_L23016	講義	2	2							2							2											
	障害者福祉論	YF_L23017	講義	2	2							2							2											
	権利擁護と成年後見制度	YF_L23018	講義	2	2							2							2											
	地域福祉の理論と方法 I	YF_L23019	講義	2	2							2						2												
	福祉行政と福祉計画	YF_L23020	講義	2	2							2							2											
	福祉サービスの組織と経営	YF_L23021	講義	2	2							2								2										
	社会保障論 I	YF_L12005	講義	2	2							2							2											
	社会保障論 II	YF_L23022	講義	2	2							2								2										
	国際福祉論	YF_L24023	講義	2	2							2														2				
	社会調査の基礎	YF_L22024	講義	2	2							2					2													
	社会調査の応用	YF_L22025	講義	2	2							2						2												
	心理検査法	YF_L23026	講義	2	2							2							2											
	精神保健福祉論	YF_L12006	講義	2	2							2						2												
	精神医学 I	YF_L22027	講義	2	2							2						2												
	精神保健学 I	YF_L23028	講義	2	2							2							2											
	精神保健福祉援助技術各論 I	YF_L23029	講義	2	2							2								2										
	精神保健福祉援助技術各論 II	YF_L23030	講義	2	2							2									2									

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年 I 期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成26年度（2014年度）入学生対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 の 分 区	授 業 科 目 の 名 称	ナバリング	授 業 方 法	学 科		幼 児 教 育 コー ス					児 童 福 祉 コー ス				学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 6 年 度 の 担 当 者	ペー ジ	
				単 位 数		幼 一 種	保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単 位 数		保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1 年		2 年		3 年		4 年				
				必 修	選 択					必 修	選 択				必 修	選 択	I	II	I	II	I	II			I
こ ど も 福 祉 基 礎 科 目	初年次演習Ⅰ	YK_S11001	演習	2	2						2				2									※1 (欄外参照)	66
	初年次演習Ⅱ	YK_S11002	演習	2	2						2				2									※1 (欄外参照)	67
	こども福祉基礎演習Ⅰ	YK_S12003	演習	2	2						2					2									
	こども福祉基礎演習Ⅱ	YK_S12004	演習	2	2						2					2									
	人間福祉論	YK_L11005	講義	2	2						2				2									田中 博一	68
	保育原理Ⅰ	YK_L11006	講義	2	2			○			2		○		2									澤田 真弓	69
	保育原理Ⅱ	YK_L21009	講義		2			●			2		●		2									澤田 真弓	70
	教育原理	YK_L11007	講義	2	2			◇	○		2		○		2									(古田 薫)	71
	こどもの心理学Ⅰ	YK_L11008	講義	2	2			◇	○	★1	2		○	★1	2									松田 信樹	72
	こどもの心理学Ⅱ	YK_S22010	演習		1			◆	○	★1		1	○	★1			2								※
	乳児保育Ⅰ	YK_S22011	演習		1			○			1		○			2									※
	乳児保育Ⅱ	YK_S22012	演習		1			○			1		○				2								※
	障害児保育Ⅰ	YK_S22013	演習		1			○	★1	□	1		○	★1	□		2								※
	障害児保育Ⅱ	YK_S22014	演習		1			○	★1	□	1		○	★1	□		2								※
	相談援助	YK_S22015	演習		1			○		□	1		○		□		2								※
	家庭支援論	YK_L23016	講義		2			○		□	2		○		□				2						
社会的養護	YK_L22017	講義		2			○		□	2		○		□		2									
社会的養護内容	YK_S22018	演習		1			○			1		○				2								※	

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※1 柚山、田中正、安井、田中博、斎藤、藤井、中島、松田、澤田、満田

科目名	生涯学習論	科目ナンバリング	YF_L21007
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する		

《授業の概要》

本講義では、生涯学習や生涯学習社会について理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習は誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。生涯学習が、人の一生と関わること、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることを理解したうえで、福祉社会における生涯学習とは何か考えます。

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』関口礼子他著(2002, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

適宜、提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 「生涯学習」という考え方について理解する
「生涯学習」とは何か・なぜ必要なのか
- (2) 「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理解する
人はどのように「生涯」を通して発達するか
- (3) 「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめる
「生涯学習」とライフサイクルの変化について
「生涯学習」と地域社会づくりについて

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回および調査発表などを数回実施する。
(文章作成能力および知識の定着度：45点)
学習の総まとめとして第15回に学習達成度を評価する。
(知識体系を理解する力、批判的思考力、関心・意欲など：55点)

《備考》

日頃より、ニュースに関心を持ち、社会状況とくに福祉社会や生涯学習社会に関する情報・知識を入手するよう努めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯学習とは何か	「生涯学習」導入の背景 教育と学習 生涯学習と社会教育
2	生涯学習と生涯発達	発達段階と発達課題 第1の発達と第2の発達 高齢期の発達課題
3	社会の変化と生涯学習(1)	人口動態の変化 人口の高齢化 高齢者にとっての学習
4	社会の変化と生涯学習(2)	情報化社会と学習 学習支援技術 遠隔教育
5	社会の変化と生涯学習(3)	グローバル化と学習 グローバル化と教育制度 グローバル化時代の学習課題
6	社会の変化と生涯学習(4)	ライフコースの変化 少子化と家族の変化 男女平等教育と家庭教育(学習)
7	生涯学習の方法(1) (演習を含む)	方法論の重要性 アンドラゴジーとペダゴジー 生涯学習の方法
8	生涯学習の場(1)	社会資源の利用 地域社会における学び 図書館と公民館/地域センター
9	生涯学習プログラムの開発 (演習を含む)	地域のニーズ プログラムの対象 企画・広報
10	生涯学習の方法(2) (演習を含む)	学校の開放 学社融合 大学の開放
11	生涯学習の方法(3) (演習を含む)	実践例に学ぶ ボランティア NPO活動
12	生涯学習の場(2)	職業的社会化と発達 職業指導 企業内教育
13	生涯学習の場(3)	教育によらない学習 宗教と儀式(祭り) 芸術と音楽
14	生涯学習と生涯福祉	生涯発達と生涯学習 地域福祉と生涯学習 社会変化と生涯学習
15	学習の総まとめ	・学習目標およびディプロマポリシーの確認 ・学習成果の確認

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	生涯発達心理学	科目ナンバリング	YF_L21008
担当者氏名	森田 義宏		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する		

《授業の概要》

生涯発達とは何か、発達に及ぼす環境の影響について学ぶ。さらに乳幼児期から青年期に至るまでの年齢段階ごとの発達の様相や課題について学ぶ。それぞれの年齢段階固有の発達上の問題についても学び、発達支援の在り方についても考察する。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達心理学で用いられる基本的用語を説明できる。
- * 発達と環境についての考え方や代表的な発達理論について説明できる。
- * 各発達段階ごとの発達課題について説明できる。
- * 子どもが抱えている発達上の問題への初歩的対処ができる。

《授業時間外学習》

講義内容を復習し、次回授業時に質問されたときに回答できる準備をしておく。常日頃さまざまな年齢段階の子どもの観察をしておく。

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 発達の概念	ディプロマポリシー 授業の進め方 成績評価 発達の概念 発達段階
2	発達の理論	発達をめぐる考え方の変遷とその背景 経験論 行動主義 進化心理学
3	発達の原理	発達の原理（順序と方向、非恒常性、遺伝と環境との相互作用） 描画の発達
4	乳児期の発達	乳児期の発達課題 乳児期の運動発達 乳児期の認知発達 シェマ 愛着
5	幼児期の発達 1	幼児期の発達課題 幼児期の運動発達 幼児期の認知発達 前概念的思考 ことばの獲得
6	幼児期の発達 2	直観的思考 環境と認知発達 幼児のものの見方特徴 自己中心性
7	幼児期の発達 3	幼児の社会性発達 遊びの意味 遊びの発達 こころの理論
8	児童期の発達 1	児童期の発達課題 児童期の認知発達 クラスの概念 保存の概念 脱中心化
9	児童期の発達 2	児童の社会性発達 道徳性の発達 向社会性の発達
10	児童期の発達 3	子どもの精神衛生 子どものストレス
11	子どもの心理的まとめ	映像で乳児から児童までの発達について習得した知識を振り返る
12	青年期の発達 1	青年期とは 青年期の課題 周辺人 自我の覚醒 自主自律の要求
13	青年期の発達 2	自我の高揚 異議申し立てと反抗 感情の論理 自己主張 脱衛星化
14	青年期の発達 3	自我の拡充 アイデンティティの確立と拡散 就職、結婚への準備 再衛星化
15	まとめ	これまでの発達を振り返り大人になるとはどういうことを考える

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	YF_L11001
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

社会福祉の発達と国民に普遍的な課題となった介護や子育て支援等を、具体的な事例を通して、社会福祉サービス体系の役割・機能を解説する。社会福祉の諸制度と支援の方法を、事例を通して解説する。講義は視聴覚教材も併用して、テキスト等の示すデータの意味や福祉小六法の使い方を演習する。

《授業の到達目標》

現代の社会福祉サービス体系を理解し、児童福祉、障害者福祉、老人福祉と生活保護における支援の役割・機能を理解する。また、社会福祉における支援方法の概要を理解する。さらに、保育福祉小六法の使い方を修得する。

《テキスト》

『国民の福祉と介護の動向2013/2014』 | 厚生労働統計協会編
 『保育福祉小六法』2014年版 保育福祉小六法編集委員会編
 みらい

《参考図書》

『社会福祉の原理と思想』岩田 正美 永岡 正己 武川 正吾
 平岡 公一編 有斐閣
 『日本社会福祉の歴史』菊池、清水、田中、永岡、室田編
 ミネルヴァ書房
 『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』山辺朗子
 ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

なし

《成績評価の方法》

期末に筆記試験を実施して評価する。(100%)

《備考》

- 事前学習 次回講義予定内容に関連するテキストを読む
- 復習 ノートの整理

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念	現代の社会福祉の概要と憲法25条、13条の意味を解説する。
2	社会福祉の歴史	イギリスと日本の社会福祉の発達史を解説する
3	社会福祉の行財政	国、都道府県、市町村の社会福祉関連機関を役割・機能を解説し、国家予算および地方自治体の社会福祉費用の現状とその構造を示す。
4	障害者福祉	日本の障害者福祉の歴史と障害者福祉の現状について解説し、障害者権利条約 障害者基本法についてその基本的な考え方について解説する。
5	障害者福祉	ICFと障害の理解を解説し、障害者総合支援法による介護、医療、就労支援サービスがどのように機能しているか、サービス利用の立場から解説する。
6	老人福祉	「高齢社会とは何か」を考え、その社会的影響(消費税など)を解説する。
7	老人福祉	年金、高齢者医療の概要を説明し、介護保険を詳しく解説して、介護保険の諸問題を考察する。
8	児童福祉	児童福祉の歴史を解説し、現代の児童問題を提示して、その論点を示す。
9	児童福祉	児童養護・児童自立支援の制度とその支援過程を解説する。
10	児童福祉	児童虐待防止法を中心に児童虐待の予防と支援について解説し、については現代家族の在り様を考察する。
11	生活保護制度	現代の貧困を分析し、生活保護制度の仕組みを解説し、その課題を示す。
12	相談援助	相談援助と専門職について解説する。
13	相談援助	相談援助の理論と方法について解説する。方法の解説には事例を検討する。
14	地域福祉	市町村の社会福祉計画の概要を説明し、地域の福祉課題を示し、それぞれの住む地域での福祉を考察する。
15	福祉の在り方	ノーマライゼーション、自立思想、利用者本位の視点から現代社会福祉サービスを論ずる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	YF_L21009
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

社会福祉政策の観点から、戦後の社会福祉政策の潮流を解説する。政策転換期の実態と意義を説明し、サービス供給の現状と課題、国民負担（消費税等）、国と地方の関係、社会福祉専門職の確保と育成、国際比較を通じて我が国の社会福祉政策の現状と課題について述べる。

《テキスト》

『国民福祉の動向2013/2014版』（財）厚生統計協会（編），厚生統計協会，2013

《参考図書》

『福祉国家という戦略』宮本太郎著 法律文化社、1999
 『福祉資本主義の三つの世界』G.エスピン・アンデルセン著 岡沢・宮本監訳 ミネルヴァ書房、2001

《授業の到達目標》

- 1 我が国の戦後社会福祉政策の軌跡を理解する。
- 2 社会福祉サービス供給体制について理解する。
- 3 社会福祉サービスの利用者本位と利用者負担について理解する。
- 4 社会福祉専門職の職業能力とキャリア形成について理解する。
- 5 社会福祉の国際比較の学習方法を修得する。

《授業時間外学習》

- 1 事前学習 示された次回講義予定のテーマに関連するテキスト、参考文献を読む。
- 2 復習 講義ノート整理をし、理解できている部分と理解不十分な箇所を明らかにし、その不明な点の解消に努める。

《成績評価の方法》

期末に課題についてレポート（約10000字程度）を提出し、それを評価する。（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉政策の領域	社会福祉制度の体系を解説する。
2	現代福祉政策分析の枠組み	福祉サービス対象者、給付の本質および給付額とサービスの種類、福祉の財政と行政を解説する。
3	戦後日本の社会福祉政策の歩み（1）	生活保護法の制定から児童手当・老人医療費無料化までの期間を福祉制度の確立期から充実期として解説する。
4	戦後日本の社会福祉政策の歩み（2）	経済低成長期下の福祉の調整期からゴールドプランの転換期を解説する
5	再構築期の社会福祉政策	社会保障制度審議会「社会保障体制の再構築」（1995）から現在までの社会福祉の構造改革の意味を解説する。
6	社会福祉サービスの供給のあり方	社会福祉サービスが「措置制度」から「契約」に転換し、利用者の選択権について解説する。
7	市場化と経営主体の多様化	非営利法人の社会福祉法人以外のNPO法人や営利法人が福祉の領域に参入した現状とその意味について解説する。
8	施設サービスと在宅サービス及び地域福祉	施設サービスから地域で生活するための福祉サービスへの政策転換を解説し、その意義と課題を示す。
9	社会福祉の専門職	社会福祉士・介護福祉士・保育士の養成課程を示し、その求められる専門職としての職業能力について解説する。
10	社会福祉におけるキャリア形成	福祉サービスに従事する専門職のキャリア形成を、他産業と比較においてその必要性を解説し、各自のキャリア形成を考える。
11	社会福祉サービスの財源	国、地方自治体、利用者負担の構造を明らかにし、これからの費用負担について展望を示す。
12	社会福祉政策の在り方	地域福祉または地域福祉政策から福祉国家の在り方を考察する
13	現代福祉国家と福祉サービス	普遍化する社会福祉サービスの現状をとおして福祉国家戦略を考察する。
14	北欧型モデルとアメリカ型モデルの比較	高福祉高負担を前提に充実した福祉サービスをもつスウェーデンなどのモデルと自己責任型を重視する「小さな政府を」基本とするアメリカのモデルを比較する。
15	これからの日本における福祉政策の課題	少子高齢社会の進展と日本経済の先行き不透明の課題を分析して、これからの福祉政策を考察する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	児童家庭福祉	科目ナンバリング	YF_L11003
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがまを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷，児童家庭福祉と保育，児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し，児童家庭福祉の現状を把握し，その課題について考察する。

《テキスト》

『児童家庭福祉』，白地社，2014

《参考図書》

『保育福祉小六法』2014年版，六法編集委員会編，みらい，2014

《授業の到達目標》

現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
 児童家庭福祉の歴史の変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に生かすことができる。
 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

子どもの生活にかかわる情報を入手し，授業に反映させられるようにしましょう。
 授業前にテキストを読んでおきましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験（100％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童家庭福祉の意義	児童家庭福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価。
2	子どもの権利とその歴史の変遷	子どもの権利と人権，子どもの権利に関する重要な宣言，現代の子どもを守る条約と法律。
3	保育に必要な児童家庭福祉の考え方	保育を理解するための児童家庭福祉，子どもの人権擁護と保育。
4	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状 1	児童家庭福祉の法律と制度（児童福祉法・児童に関する法律その他）。
5	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状 2	児童家庭福祉行財政とその実施機関。
6	児童福祉施設と援助者	子どもの生活を保障する児童福祉施設，児童家庭福祉を支える専門職とその実践者
7	少子社会と子どもの発達保障	少子化と子育て支援の現状，母子保健と子どもの発達保障。
8	子どもの健全育成	児童健全育成と児童館，放課後児童健全育成事業等，多様な保育ニーズと子育て支援。
9	子育てと社会的養護 1	現代家庭の抱える子育て問題，子育て家庭と子ども虐待，ドメスティックバイオレンスと現代家庭。
10	子育てと社会的養護 2	様々な課題を抱える子どもの特性，障害のある子どもの生活。
11	子育てと社会的養護 3	少年非行に陥る子どもへの社会的支援（視聴覚教材の使用）。
12	子育てと社会的養護 4	ひとり親家庭の子どもが抱える課題と支援。
13	児童家庭福祉の動向	次世代育成支援と児童家庭福祉の課題と展望，保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワークの充実。
14	諸外国の子育て事情	諸外国の子育て支援の動向，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容（視聴覚教材の使用）。
15	まとめ	保育士の役割と児童家庭福祉，授業内容と「保育実習」との関わり。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習	科目ナンバリング	YK_S11001
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 恵美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との良好な人間関係を構築するとともに、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

こども福祉学科に入学した学友と、刺激を与え合うことのできる良好な人間関係を構築すること。
大学での学び方を体得すること。
こども福祉学科での学びの特徴を理解する。

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
- ・ 提出された課題に対する評価 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	自己紹介を通じて自分のことを仲間にも知ってもらい、ネームカードを作成する。
2	人間関係の構築	インタビューを通してゼミの仲間と教員のことを知る。
3	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成(1)
4	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成(2)
5	大学での講義の受け方	講義を聞きつつノートをとるという技を身につける。
6	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動(1)
7	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動(2)
8	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの必要性に気づく。
9	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる(1)
10	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる(2)
11	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての身体表現を学ぶ。
12	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての手遊びで遊んでみる。
13	こども福祉学科での学びに向けて	ブラインド・ウォークを体験することによって、全身の感覚を研ぎ澄まして自然を感じてみる。
14	大学での学び方	幼稚園の現場に足を運んで調べ、理解した内容をまとめる。
15	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての音楽について学ぶ。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習	科目ナンバリング	YK_S11002
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 恵美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

初年次演習 に引き続き、こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との人間関係をさらに深めながら、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

こども福祉学科に入学した学友との関わりを深め、切磋琢磨しあえる人間関係を構築すること。
大学での学び方を体得すること。
こども福祉学科での学びの特徴を理解すること。
卒業後の進路を見据え、学びに対する意欲を高めること。

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
- ・ 提出された課題に対する評価 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	期の演習内容の解説
2	保育者となる自分自身を理解する	自分自身の他者との関わり方の特徴を知る。
3	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ(1)
4	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ(2)
5	大学での学び方	プレゼンテーションの準備をする(1)
6	大学での学び方	プレゼンテーションの準備をする(2)
7	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、幼児教育・保育と季節との関わりについて考える機会とする。
8	大学での学び方	プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(1)
9	大学での学び方	プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(2)
10	こども福祉学科での学びに向けて	レクリエーション活動を通して、幼児教育の基礎的スキルを身につける。
11	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運び、理解した内容をまとめる。
12	キャリアについて考える	取得できる免許・資格を確認する(免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める)。
13	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：手紙の書き方について学ぶ。
14	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：話し方について学ぶ。
15	期の学びのふりかえり	理想とする保育者イメージを鮮明にし、これから何を学ぶべきかを再認識する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	人間福祉論	科目ナンバリング	YK_L11005
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

我が国の福祉に大きな影響を与えた人物に焦点を当て、社会福祉（慈善事業・社会事業を含む）の思想と実践を検証し、その人々の主観、人間観について解説する。そして、現代福祉の根底にある基本的人権（歴史と体系）とノーマライゼーションの思想を解説し、福祉における「自立・自立」および「主体的に生きる」というテーマについて考察する。

《授業の到達目標》

- 1 基本的人権の歴史と体系について理解する
- 2 ノーマライゼーションについて説明できる
- 3 「主体的に生きる」意味を理解できる
- 4 福祉における自立支援が説明できる

《テキスト》

『人間福祉の思想と実践』住谷・田中・山辺編 ミネルヴァ書房

《参考図書》

- 『ICFの理解と活用』上田 敏著 きょうされん
- 『障害者福祉の世界』佐藤・小澤著 有斐閣
- 『ノーマライゼーションの原理』ニイリエ著 現代書館
- 『エミール』ルソー 岩波書店
- 『この子らを世の光に』糸賀一雄著 NHK出版

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《成績評価の方法》

期末に試験を実施して、それを評価する（100％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間福祉の思想	基本的人権の歴史と体系を解説
2	人間福祉の思想	ノーマライゼーションの思想を解説
3	人間福祉の源流	石井十次の思想と実践を解説
4	人間福祉の源流	留岡幸助の思想と実践を解説
5	人間福祉の源流	糸賀一雄・池田太郎・田村一二の思想と実践
6	人間福祉の体系	基本的人権の確立、ノーマライゼーションの施策の実行、自立生活（自己決定）実現のための福祉の基本理念を示す
7	高齢者福祉と人間福祉	ADL(Activities of Daily Living)からQOL(Quality Of Life)へ、高齢者の自立と支援を解説。
8	高齢者福祉と人間福祉	正岡子規『病牀六尺』有吉佐和子『恍惚の人』等文学にみる介護をする側、される側の考え方を解説。
9	児童福祉と人間福祉	ベスタロッチの幼児教育思想を理解して、その思想の意味するものから児童福祉の在り方を示す。
10	児童福祉と人間福祉	ルソー『エミール』の要点を解説し、ルソーの教育論から見た、養護が必要な子どもに「生きる力」を育むための児童福祉の在り方を示す。
11	障害者福祉と人間福祉	障害者が地域生活し、「主体的に生きる」意味を考察する
12	障害者福祉と人間福祉	障害者の自立・自律思想とその実践を解説し、エンパワーメント、セルフ・アドボカシーの理論を解説する。
13	障害者福祉と人間福祉	ICFの理論を解説し、障害者の社会参加を広げる意義と方法を示し、共生社会の形成を考察する。
14	人間福祉の展開にみる支援と援助	ソーシャルワークの理論を解説し、ソーシャルワークが「人間」をどのように扱ってきたかを示し、「生活の主体」としての人間を考察する。
15	社会福祉の新潮流と人間福祉	社会福祉の構造改革から再構築へと、転換期にある社会福祉の方向性を解説し、人間本位の福祉の在り方を提示する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理	科目ナンバリング	YK_L11006
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

保育という営みを制度や歴史の変遷、内容と方法、子どもの発達過程などの主要な観点から考察し、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す

《テキスト》

『よくわかる保育原理第3版』森上史朗浩編、ミネルヴァ書房
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

保育の意義と特質について理解できる 子どもの発達と
保育者の役割について理解できる 保育を取り巻く現状と
課題について主体的に考えることができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育の意義と目標
2	保育の基盤としての子ども観	様々な子どもの捉え方 保育者として備えておきたい子ども観
3	保育の歴史の変遷	西洋の保育
4	保育の歴史の変遷	日本の保育
5	幼稚園・保育所の意義と役割	幼稚園の意義と役割
6	幼稚園・保育所の意義と役割	保育所の意義と役割
7	保育の内容と方法	養護的側面と教育的側面を併せ持つ保育の特質
8	保育の内容と方法	子どもの生活と5領域の関係
9	子どもの発達と保育	環境を通して行う教育とは
10	子どもの発達と保育	遊びを中心とした総合的な指導とは
11	保育の計画と評価	保育・教育課程と指導計画
12	保育の計画と評価	評価の観点と方法
13	多様な保育ニーズと子育て支援	多様化する保育ニーズと子育て支援の現状を理解する
14	保育の現代的課題	現行の保育を取り巻く様々な課題について考察する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理	科目ナンバリング	YK_L21009
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

保育原理 の学習内容をさらに発展させ、個別の事例研究などを取り入れながら保育者として必要な知識を深める。また、家庭や他機関との連携協力にも着目し、保育者としての幅広い視野の獲得を目指す。

《テキスト》

『よくわかる保育原理第3版』森上史朗編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

保育の内容や方法に関する基礎知識をさらに深める
 保育者としての幅広い視野を獲得する
 保育施設の現状を理解し、それぞれが抱える課題に対して主体的な意見を述べるができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育とは（保育原理 の学習内容を踏まえて）
2	子ども理解と保育の方法	日本における保育の始まりと恩物教育
3	子ども理解と保育の方法	新教育運動と児童中心主義
4	子ども理解と保育の方法	新教育運動と児童中心主義
5	保育における遊び	遊びの意義
6	保育における遊び	子どもの発達と遊び（事例研究）
7	保育の計画と評価	課程編成の原理と方法
8	保育の計画と評価	指導計画作成の原理と方法
9	保育の計画と評価	評価と省察の原理と方法
10	家庭および他機関との連携	子どもを取り巻く多様な人々との連携協力
11	連続性を踏まえた保育	保育における連続性とは
12	連続性を踏まえた保育	事例研究
13	幼稚園の現状と課題	幼稚園が抱える今後の課題について検討する
14	保育所の現状と課題	保育所が抱える今後の課題について検討する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	YK_L11007
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、教育の本質を考察する意義と必要性について理解を深める。
2	教育の目的①	・子どもの発達とは何か、子どもが育つとはどのようなことかを理解する。 ・子どもの発達と教育の関係を考察する。
3	教育の目的②	・教育とは何か、教育の概念、目的と意義について理解する。 ・教育の形態と機能について理解する。
4	教育の理念①	・主な教育思想、教育哲学の系譜を知り、代表的思想家とその教育思想の内容について理解する。
5	教育の理念②	・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響を考察する。
6	公教育制度の成立と発展①	・学校の始まりやその目的を世界史の視点から歴史的に理解する。
7	公教育制度の成立と発展②	・日本における近代公教育の成立と発展の過程を学習する。 ・日本における教育思想と実践の発展について知る。
8	学校に対するアンチテーゼ①	・学校化社会の成立について理解しと脱学校論の意義を検討する。
9	学校に対するアンチテーゼ②	・さまざまなオルタナティブ教育の教育観と実践について知り、教育における意義について考察する。
10	問題解決学習と系統学習	・問題解決学習と系統学習の特徴を知り、それぞれの利点と課題を理解する。
11	家庭教育の意義と役割	・家庭教育の重要性について考察する。 ・子どもが育つ環境としての地域社会の役割を考える。
12	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉について理解する。 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応について理解する。
13	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景、生涯学習の重要性を理解する。 ・現代社会を生涯学習に視点でとらえなおし、自分のライフコースをデザインする。
14	教育の現代的課題	・現代の子どもを取り巻く社会的状況を理解し、教育が直面するさまざまな課題について考察する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表会により、自分の学習を振り返る。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こどもの心理学	科目ナンバリング	YK_L11008
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のおまづきについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》

保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。発達障がいについて正しく理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

- 『シードブック 保育の心理学』 本郷一夫（編） 建帛社 2011
- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』 若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長を見つめる心理学への導入	心理学とはどのような学問か、そして「こどもの心理学」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間の発達を規定する要因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期の母子関係について学ぶ。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	乳児期から幼児期にかけての発達～その3	乳幼児期の発達に関して、注目獲得行動に焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達に関して、学習に対するやる気に焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、特に親としての成長をテーマに学ぶ。
14	発達のおまづき～その1	発達障がいについて、障がいの捉え方について学ぶ。
15	発達のおまづき～その2	広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害等について詳しく学ぶ。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと環境	科目ナンバリング	YS_S21011
担当者氏名	三宅 茂夫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する		

《授業の概要》

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもち関わり、それらを生活や遊びに取り入れようとする力を養うことが目標である。そのなかで多様な感覚や概念等も形成される。本授業では、幼児教育の基本的視点「環境を通して行う教育」から、領域「環境」のねらいを捉え、子どもにとって必要な環境のあり方、保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。前半は講義形式で、後半は模擬保育等を実施する。

《授業の到達目標》

幼稚園教育における領域概念を理解し、領域「環境」の目標やねらいを理解し、それらを生活の中で培い、育てていくための保育実践に必要な基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

《成績評価の方法》

模擬保育（50％）、レポート（25％）、平常点（25％）などを総合して行う。

《テキスト》

- ・三宅茂夫・大森雅人・爾寛明編著 / MINERVA保育実践学講座9 「保育内容『環境』論」 / ミネルヴァ書房 / 2010
- ・文部科学省 / 「幼稚園教育要領解説」 / フレーベル館 / 2008

《参考図書》

必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。

《授業時間外学習》

今回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・幼稚園教育の基本と領域	本授業の目的や目標、内容、計画等についての理解。幼稚園教育の基本や重視する事項、領域概念などについて理解する。
2	領域「環境」のねらいと内容	領域「環境」に示されるねらいと内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
3	領域「環境」における指導上の留意点	領域「環境」に示されるねらいと内容をふまえ、それらを指導する上での留意点を理解し、保育を実施する見通しをもつ。
4	模擬保育の実践と学び方・模擬保育の準備	模擬保育の実施方法や反省会の仕方等を学び、グループやテーマの選択など次回以降の模擬保育実施の準備を行う。
5	模擬保育 の説明と実践	模擬保育 の指導案の事前説明と実施。
6	模擬保育 の反省と次回指導案の検討	模擬保育 の反省と次回実施の模擬保育 の指導案検討。
7	模擬保育 の説明と実践	模擬保育 の指導案の事前説明と実施。
8	模擬保育 の反省と次回指導案 の検討	模擬保育 の反省と次回実施の模擬保育 の指導案検討。
9	模擬保育 の説明と実践	模擬保育 の指導案の事前説明と実施。
10	模擬保育 の反省と次回指導案 の検討	模擬保育 の反省と次回実施の模擬保育 の指導案検討。
11	模擬保育 の説明と実践	模擬保育 の指導案の事前説明と実施。
12	模擬保育 の反省と次回指導案 の検討	模擬保育 の反省と次回実施の模擬保育 の指導案検討。
13	模擬保育 の説明と実践	模擬保育 の指導案の事前説明と実施。
14	模擬保育 の反省	模擬保育 の反省。
15	まとめ	学習のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと言葉	科目ナンバリング	YS_S21012
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

言葉の機能と乳幼児のこば獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常生活の中で、人との関わりを通して言葉を獲得していく。又、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その理論と指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『ことばと保育』近藤幹生他著 (ひとなる書房)
『保育所保育指針解説書』
『幼稚園教育要領解説書』

《参考図書》

『絵本で育つ子どものことば』徳永満理著 (アリス館)
適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》

言葉の機能を理解し、乳幼児のこば獲得のプロセスと指導方法を習得する。言葉が人間性を最もよく現すことを理解し、保育者としてふさわしい言葉感覚を持つことを理解する。言葉を育てる文化財を理解し、その実践力を培う。創作絵本製作を通してことばの大切さを知る。

《授業時間外学習》

- ・ 創作絵本の作成
- ・ 絵本の選書と事前練習
- ・ 演劇や映画などを観賞する機会を多く持ち、感性を磨く
- ・ 子どものところへ出かけていき、読み聞かせなどをさせてもらい、技術を磨く

《成績評価の方法》

筆記試験 (教科書・資料、持ち込み可とする) 60%
創作絵本 20%
レポート提出・授業内発表 15%
授業中の態度 5%

《備考》

- ・ 正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
- ・ 授業中の飲食・携帯電話・私語厳禁
- ・ 提出物の期限は厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 言葉のねらいと内容	・ 講義の概要・履修上の注意・授業の進め方 ・ 絵本の読み聞かせの意義-選書・読み方
2	言葉の機能を考える	人間にとっての「ことばとは」
3	保育内容としての「ことば」の歴史	保育内容「ことば」の移り変わり 幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して
4	「ことば」の育つみちすじ①	ことばを話す前に～0歳児のことば～
5	「ことば」の育つみちすじ②	ことばを話せようになってから～1・2歳児のことば～
6	「ことば」の育つみちすじ③	3歳児のことば
7	「ことば」の育つみちすじ④	4歳児のことば
8	「ことば」の育つみちすじ⑤	5歳児のことば
9	「ことば」を育むための保育者の関わり・役割	・ 話し合い場面での保育者の役割 ・ けんか・トラブル場面での保育者の役割 ・ 保育園・幼稚園におけることばをめぐる問題
10	「ことば」を育てるあそび①	児童文化財とは
11	「ことば」を育てるあそび②	児童文化財との関わり① 絵本
12	「ことば」を育てるあそび③	児童文化財との関わり② 紙芝居
13	指導計画と「ことば」	・ 乳児保育の指導計画 ・ 幼児の指導計画
14	家庭との連携と「ことば」	・ 保育を伝える手段としての「クラスだより」 ・ 園と家庭をつなぐための連絡帳
15	「ことば」を聞く意味、記録する意味	・ 幼児のことばを記録する取り組み・ことばへの自分なりの視点をもつこと・ことばを記録するには・子どものことばの世界を広くとらえること

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと身体表現	科目ナンバリング	YS_S21014
担当者氏名	井上 眞美子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる <input type="radio"/> 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する <input checked="" type="radio"/> 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《テキスト》

『表現』幼児音楽①② 小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》

『手あそび指あそび』吉本澄子著（玉川大学出版部）『ドラマによる表現教育』ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《授業の到達目標》

- ・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
- ・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《備考》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスの動きについて理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスの動きについて理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズムカルに動くことを確認する

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと音楽	科目ナンバリング	YS_S11001
担当者氏名	中島 龍一、他		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、現場における応用力を身につけるための基礎技能を学びます。ピアノ初学者から経験者に至るまで個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜織り交ぜながら進めていき、様々な形態での伴奏能力を身に付けます。また、連弾を通してアンサンブルの大切さも学びます。

《テキスト》

『うたのメルヘン』 『ぴあのってすばらしい』
『ピアノデュオドラゴン・名曲集』

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示、または配布します。

《授業の到達目標》

楽譜に書かれていることを理解し、幼児教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。

コードネームおよびメロディーと伴奏による演奏ができる。

歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。

現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、毎日の練習の積み重ねです。反復練習を十分に、レパートリーを広げていきましょう。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。

室内での飲食厳禁。

爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	期授業内容の説明およびレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードネームと音階の理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(C, F, Gコード)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(セブンスコード)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(シャープ系のコード)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(フラット系のコード)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(マイナーコード)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ディミニッシュコード)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(オーギュメントコード)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ナインスコード)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードの変換)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(アルペジオ)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(終止形について)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	期の総まとめ。 期に向けての説明と指導。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと音楽	科目ナンバリング	YS_S21016
担当者氏名	中島 龍一、他		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、期の内容を更に発展させる形で学びます。受講生個人の進捗状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付けます。子どもの歌の弾きうたいは勿論、連弾やピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も弾けるようにします。

《テキスト》

『うたのメルヘン』 『ぴあのってすばらしい』
『ピアノデュオドラゴン・名曲集』

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示、または配布します。

《授業の到達目標》

楽譜に書かれてあることを理解し、幼児教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。

コードネームおよびメロディーと伴奏による演奏ができる。

歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。

現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、毎日の練習の積み重ねです。反復練習を十分に、レパートリーを広げていきましょう。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。

室内での飲食厳禁。

爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	期授業内容の説明およびレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形についての理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーの運指法について)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形の運指法について)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子の伴奏形)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(3拍子の伴奏形)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子と2拍子の違いについて)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(連符について)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーへの和音付け)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーと伴奏のバランス)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(装飾音符の扱い方と演奏法)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(調性について)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(移調奏法)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	期の総まとめ。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと造形 I	科目ナンバリング	YS_S11002
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

保育現場での造形遊びで生かせる基礎（描写、色彩）や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現する。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなる。言葉でいいあわせない気持ちを存分に出すことができる。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作する。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。

《授業の到達目標》

鉛筆を使いこなし自由に表現できるようになる。
色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

「お絵描きあそび」アトリエ・リュミエール/鈴木あきこ

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答える。

《備考》

遅刻について/授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション/鉛筆基礎①	材料、道具の説明。鉛筆の持ち方
2	鉛筆基礎②	線の練習、消しゴム
3	鉛筆基礎③	立体感、マチエール、線画
4	鉛筆基礎④	グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線
5	鉛筆デッサン	果物や野菜を精密に鉛筆デッサンする
6	色と形を楽しもう①	エリックカール技法、エンバリーおじさん技法
7	色と形を楽しもう②	3原色でリアルな野菜を描こう
8	色と形を楽しもう③	子供の物語性を引き出す想像の世界
9	スタンプ遊び①	指紋スタンプで描いてみよう
10	スタンプ遊び②	紙版画技法を学ぼう
11	きってやぶいてよーくみて①	いちごがいっぱい！何に見えるかな！絵本作り
12	きってやぶいてよーくみて②	巨大クッキング～焼そば
13	重ねてコラージュ①	水きりえ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
14	重ねてコラージュ②	紙ビーズのアクセサリ
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと造形	科目ナンバリング	YS_S21019
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

造形あそびをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。このような活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心にイベント企画を提案する。

《授業の到達目標》

オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
ダンボール、布、缶、プラスチックで壁面や展示作品を作る（組み換える、生かす）

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《参考図書》

イタリア:レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録『子どもたちの100の言葉』（学研）

《授業時間外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《備考》

遅刻について。授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の説明
2	造形遊び	紙の引出しペーパーの制作
3	造形遊び	模写作品
4	造形遊び	粘土でミニチュアクッキング。food制作
5	造形遊び	粘土でミニチュアクッキング。記念品制作。
6	造形遊び	ガチャポンの風鈴制作。
7	造形遊び	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
8	造形遊び	立体ワンコ。組み立て、張子作業
9	造形遊び	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作。
10	造形遊び	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り。
11	造形遊び	立体ワンコ。本塗り、仕上げ。
12	造形遊び	カンカン宝箱制作。
13	造形遊び	リメイク大作戦、お昼ねテント&ふりふりフラッグ制作。
14	造形遊び	全作品チェック後、学内にてピクニックを開催。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を制作。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと運動Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S11003
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、Ⅱ期開講の子どもと運動Ⅱに有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》

保育者として乳幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し乳幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、乳幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）“Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方をと運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方をと運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

科目名	こどもと運動Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21022
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、保育における幅広い運動遊びの実践に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》

保育における幼児期の各年代に応じた運動遊びの援助が的確に出来る能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動遊びの正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期の各年代に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「運動発達科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for Young Children”
 DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
15	まとめ	全体のまとめをする

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こども文化論Ⅰ	科目ナンバリング	YS_L21025
担当者氏名	高橋 司		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

こども文化の精神と技術の習得のために様々な文化財を提示する。

こども文化とは何かを理解し、様々なこども文化財の創作を通してこども文化の心に触れ、幼児教育者としての感性と創造性を養う。

《テキスト》

『児童文化と保育 こころ豊かな文化を育むために』高橋司 編著 宮帯出版社

《参考図書》

未定

《授業の到達目標》

こども文化がこどもの個性を伸ばし新しい時代に的確に対応した自己確立を促すものであることを理解することができる。

こども文化の心を練磨し、こどもの価値志向を伸ばす素材について考えることができる。

こどもが文化を享受し、創造して遊ぶことの実際を、各実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

日頃から、絵本、紙芝居、人形劇など、こどもの情操を育む素材に触れるようにしましょう

《成績評価の方法》

定期試験（60％）、小レポート（20％）、受講態度等（20％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明、本授業と幼稚園教諭・保育士資格との関連、幼稚園等における本授業内容の展開
2	こども文化とは何か	こども文化の定義、領域、本質
3	こども文化における「こども」	法律におけるこども、心理学におけるこども
4	こども文化とこども観①	古代から近世まで
5	こども文化とこども観②	近代から現代まで
6	こども文化とこども観③	こども観の変遷についてのまとめ
7	こどもの発達とこども文化	おもちゃの歴史、発達に応じたおもちゃ、年齢に見合った玩具
8	こども文化の本質	おもちゃの機能と効用
9	こどもの情操を育む文化財①	童話
10	こどもの情操を育む文化財②	紙芝居
11	こどもの情操を育む文化財③	ペープサート
12	こどもの情操を育む文化財④	絵本・人形劇
13	こどもの情操を育む文化財⑤	パネルシアター
14	こどもの情操を育む文化財⑥	エプロンシアター
15	こどもの情操を育む文化財⑦	音楽

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	学 科		幼 児 教 育 コー ス					児 童 福 祉 コー ス					学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 6 年 度 の 担 当 者	ペー ジ			
			単 位 数		単 位 数	幼 一 種	保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単 位 数		保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1 年		2 年		3 年		4 年						
			必 修	選 択						必 修	選 択				必 修	選 択	I	II	I	II	I	II			I	II	
こ ど も 福 祉 基 礎 教 育 科 目	初年次演習Ⅰ	演習	2	2					2				2														
	初年次演習Ⅱ	演習	2	2					2					2													
	こども福祉基礎演習Ⅰ	演習	2	2					2						2											※1 (欄外参照)	98
	こども福祉基礎演習Ⅱ	演習	2	2					2							2										※1 (欄外参照)	99
	人間福祉論	講義	2	2					2						2												
	保育原理Ⅰ	講義	2	2			○		2		○			2													
	保育原理Ⅱ	講義		2	2		●			2	●				2												
	教育原理	講義	2	2		◇	○			2	○			2													
	こどもの心理学Ⅰ	講義	2	2		◇	○	★1	2		○	★1			2												
	こどもの心理学Ⅱ	演習		1	1	◆	○	★1		1	○	★1				2										松田 信樹	100 ※
	乳児保育Ⅰ	演習		1	1		○		1		○					2										[徳永 満理]	101 ※
	乳児保育Ⅱ	演習		1	1		○		1		○						2									[徳永 満理]	102 ※
	障害児保育Ⅰ	演習		1	1		○	★1	□	1	○	★1	□			2										[小林 洋司]	103 ※
	障害児保育Ⅱ	演習		1	1		○	★1	□	1	○	★1	□				2									[小林 洋司]	104 ※
	相談援助	演習		1	1		○		□	1	○		□				2									[大西 雅裕]	105 ※
	家庭支援論	講義		2	2		○		□	2	○		□						2								
	社会的養護	講義		2	2		○		□	2	○		□						2							[藤本 政則]	106
社会的養護内容	演習		1	1		○			1	○								2							[藤本 政則]	107 ※	

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※1 杉山、田中正、安井、田中博、斎藤、藤井、中島、松田、澤田、満田

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	学 科		幼 児 教 育 コー ス					児 童 福 祉 コー ス					学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 6 年 度 の 担 当 者	ペー ジ
			単 位 数		単 位 数	幼 一 種	保 育 士	こ ども 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単 位 数		保 育 士	こ ども 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1 年		2 年		3 年		4 年			
			必 修	選 択						必 修	選 択				必 修	選 択	必 修	選 択	I	II	I	II		
専 門 教 育 科 目 群	こどもの保健ⅠA	講義	2	2	○	★2	2	○	★2				2								(久井 志保)	108		
	こどもの保健ⅠB	講義	2	2	○	★2	2	○	★2					2							(久井 志保)	109		
	こどもの保健Ⅱ	演習	1	1	○	★2	1	○	★2						2						(久井 志保)	110		
	こどもの食と栄養Ⅰ	演習	1	1	○		1	○								2								
	こどもの食と栄養Ⅱ	演習	1	1	○		1	○									2							
	こどもと健康	演習	2	2	◇	○	■1	2	○	■1			2								[近藤 正子]	111		
	こどもと人間関係	演習	2	2	◇	○	■1	2	○	■1			2								[荘司 泰弘]	112		
	こどもと環境	演習	2	2	◇	○	■1	2	○	■1	2													
	こどもと言葉	演習	2	2	◇	○	■1	2	○	■1	2													
	こどもと音楽表現	演習	2	2	◇	○	★3	■2	2	○	★3	■2	2		2						中島 龍一	113		
	こどもと身体表現	演習	2	2	◇	○	■2	2	○	■2	2			2										
	こどもと言語表現	演習	2	2	◇	○	■2	2	○	■2	2			2							[前田 美智代]	114		
	こどもと音楽Ⅰ	演習	2	2	◇	○	★3	■2	2	○	★3	■2	2											
	こどもと音楽Ⅱ	演習	2	2	◇	●	★3	2	●	★3	2			2										
	こどもと音楽Ⅲ	演習	2	2	◇			2								2								
	こどもと音楽Ⅳ	演習	2	2	◆			2									2							
	こどもと造形Ⅰ	演習	2	2	◇	○	■2	2	○	■2	2			2										
	こどもと造形Ⅱ	演習	2	2	◇	●		2	●		2			2										
	こどもと造形Ⅲ	演習	2	2	◇	●		2	●		2					2								
	こどもと造形Ⅳ	演習	2	2	◆			2			2						2							
	こどもと運動Ⅰ	演習	2	2	◇	○	■2	2	○	■2	2			2										
	こどもと運動Ⅱ	演習	2	2	◇	●		2	●		2			2										
	こどもと数	講義	2	2	◇			2								2								
	こどもと生活	講義	2	2	◇			2								2					[安藤 和彦]	115		
	こども文化論Ⅰ	講義	2	2	◆			2						2										
	こども文化論Ⅱ	演習	1	1	◆			1								2					[高橋 司]	116		
こどもとメディア	講義	2	2				2										2							
国際こども文化論	講義	2	2				2											2						

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外の※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	学科		幼児教育コース					児童福祉コース				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成26年度の担当者	ページ	
			単位数		幼一 種	保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単位数		保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1年		2年		3年		4年				
			必修	選択					必修	選択				必修	選択	I	II	I	II	I	II			I
専門教育科目 発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ	講義	2	2					2						2								藤井 恵美子	125
	子育て支援地域活動Ⅱ	演習	2	2				□	2								2							
	児童館の機能と運営	講義	2	2				□	2								2							
	発達障害児への支援	演習	2	2	◆		★1		2		★1								2					
	児童の貧困と虐待	講義	2	2					2									2						
	児童の健全育成と福祉	講義	2	2				□	2									2						
	少子高齢社会とこどもの生活	講義	2	2					2									2						
	施設保育士論	講義	2	2					2										2					
	男女共同参画社会の構築	講義	2	2					2											2				
	福祉経営実践演習	演習	2	2					2											2				
	消費者教育	講義	2	2					2											2				
	幼児のための福祉教育Ⅰ	講義	2	2	◇				2										2					
	幼児のための福祉教育Ⅱ	演習	2	2	◇				2											2				
	こども福祉特論	講義	2	2					2											2				

〔課程外科目〕

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	学科		幼児教育コース					児童福祉コース				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成26年度の担当者	ページ	
			単位数		幼一 種	保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単位数		保 育 士	こ ど も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1年		2年		3年		4年				
			必修	選択					必修	選択				必修	選択	I	II	I	II	I	II			I
資格関連科目	児童館実習（10日間）	実習	2	2				□1	2			□1								4				
	児童館実習（20日間）	実習	4	4				□2	4			□2								8				

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外の※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。Ⅰ期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業の到達目標》

- ① ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ② ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題を検討する。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロプメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念であるが、危機状況では、一時、自己決定権を預かることも支援となる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的、立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組めるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助の目的と過程はノーマライゼーションの実現への取り組み過程ともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあろうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化と看られる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7 「相談援助の理論と方法Ⅰ」 新社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践 I				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法Ⅰ第2版」 中央法規

《参考図書》

- ・H.M. パートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
- ・社会福祉小6法 中央法規 2013

《授業の到達目標》

実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《授業時間外学習》

新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてください。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度30% 課題達成20% 終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。

《備考》

遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との相互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するとともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求められるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライアントのモチベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

公的扶助の概念・対象・歴史とともに、日本の生活保護制度や関連する諸制度上の仕組みを学ぶ。さらに、低所得者対策等に関して学ぶとともに、相談援助活動や自立支援プログラムに関する知識を習得する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会/「新・社会福祉士養成講座」16 低所得者に対する支援と生活保護制度/中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。生活保護制度の仕組みと今日的動向を理解する。低所得者対策に関連する組織、専門職の役割について理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に際立ち教科書は必ず熟読しておくこと。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、何予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲、意義と役割
2	貧困・低所得者問題と社会的排除 (1)	貧困・低所得問題の意味
3	貧困・低所得者問題と社会的排除 (2)	社会的排除等の意味
4	公的扶助制度の歴史 (1)	イギリスの公的扶助発達史 (貧困の把握、対応策の変化)
5	公的扶助制度の歴史 (2)	日本の公的扶助発達史
6	生活保護制度の仕組み (1)	生活保護法の目的と基本原理
7	生活保護制度の仕組み (2)	生活保護法の原則
8	生活保護制度の仕組み (3)	生活保護の種類、内容、方法
9	生活保護制度の仕組み (4)	保護施設、被保護者の権利・義務、不服申立て
10	生活保護制度の仕組み (5)	生活保護の財源・予算
11	生活保護基準と最低生活保障水準	生活保護基準と最低生活保障水準
12	生活保護の動向・低所得者対策	生活保護の動向および低所得者対策
13	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	生活保護の運営実施体制と関係機関
14	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動	生自立支援プログラムの位置づけおよびその策定
15	自立支援プログラムの意義と実際	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動

科目名	介護概論				
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-2 こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。

対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《テキスト》

社会福祉学双書 15 介護概論 社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》

- ①ケアの本質-生きることの意味- ミルトン・メイワ ゆみる出版
- ②人間科学的生活支援論 黒澤貞夫 ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《授業時間外学習》

家族や近隣者の高齢者とかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。
 またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への積極的参加度・施設 (15点)
- (2) レポート課題 (15点)
- (3) 小テスト (20点)
- (4) 定期試験 (50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について学ぶ。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について学ぶ。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①察観②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について学ぶ。
6	介護過程 (1)	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について学ぶ。
7	介護過程 (2)	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて学ぶ。
8	生活支援技術の基本 (1)	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護について学ぶ。
9	生活支援技術の基本 (2)	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について学ぶ。
10	生活支援技術の基本 (3)	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について学ぶ。
11	障害別生活支援 (1)	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害(盲ろう)の理解と生活支援について学ぶ。
12	障害別生活支援 (2)	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について学ぶ。
13	障害別生活支援 (3)	内部障害の理解と生活支援について学ぶ。
14	障害別生活支援 (4)	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について学ぶ。
15	障害別生活支援 (5) まとめ	認知症(若年性認知症を含む)の理解と生活支援について学ぶ。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会調査の基礎				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

社会調査の意義と歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法を学びます。社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

授業内で指示します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。統計表を読み取り、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し、地域社会での社会的弱者のおかれた総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。3回に1回程度宿題を課しますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉分野で社会調査が必要な背景、国家試験での位置づけなどを説明します。
2	社会調査の歴史1	ブースの貧困調査など社会調査の歴史を振り返り社会福祉での位置づけを行います。
3	社会調査の歴史2	社会調査と関係の深い統計の歴史を踏まえ民主的な公的統計のあり方を学びます。
4	日本の統計制度	日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的統計と質的統計	公的統計など量的調査と観察など質的統計の違いを学びます。
6	アンケート調査1	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解します。
7	アンケート調査2	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
8	アンケート調査3	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
9	調査結果の分析1	尺度水準などデータ分析の基本とデータの整理と記述統計、集計など基本的な分析の手法を学びます。
10	調査結果の分析2	引き続き、記述統計、集計など基本的な分析の手法を学びます。
11	調査結果の分析3	回帰分析、相関分析など2変数以上の変数についての分析方法を学びます。
12	調査結果の分析4	仮説検定の基本的なことを学び、その概念を理解します。
13	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて理解します。インタビューの記述方法について学びます。
14	観察の方法	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について理解します。

科目名	社会調査の応用				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

テーマを決めて社会調査を行います。調査計画の作成とアンケート調査を実施します。その結果をパソコンを使って分析します。実践を通し、統計手法と分析の手順を学びます。分析の結果を踏まえて考察し、報告書（レポート）を作成します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

社会調査を企画し実施し報告をまとめるという一連の作業について自力でできるようになることが目標です。その過程を通して、統計学的な理解、パソコンへの習熟、報告書を作成することによるプレゼンテーション能力の向上を図ります。

《授業時間外学習》

アンケートの実施などは授業時間外に行う必要があるかもしれません。

《成績評価の方法》

報告書作成の過程、その内容で評価をします。

《備考》

受講者によりパソコン室の利用、グループ学習を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	グループに分かれて調査テーマの確定。調査の進行表の作成。
2	調査計画の作成	調査目標を定め、調査対象や調査項目を考察するなど、調査計画書を作成します。
3	アンケート調査票の作成と調査の実施1	調査計画書を元にして、アンケート票を作成します。調査対象者からアンケート調査対象者をどのように抽出するのかを検討します。
4	アンケート調査票の作成と調査の実施2	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート調査対象者を抽出します。
5	アンケート調査票の作成と調査の実施3	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート調査対象者に対してアンケートを実施します。
6	統計ソフト、表計算ソフトの紹介	統計ソフト（SPSS）、表計算ソフト（EXCEL）について紹介します。サンプルを入力して、開始から終了までの統計ソフトや表計算ソフトの使い方の基礎を学びます。
7	アンケート調査結果のデータ入力1	単数回答、複数回答の場合、また自由記述欄の入力など、アンケート調査結果のデータ入力方法について理解し、実際に入力します。
8	アンケート調査結果のデータ入力2	入力したデータについて論理チェックを行い、修正などを加えて、データ入力を完了し、データセットを作成します。
9	アンケート調査の分析（1変数の分析）1	1変数の分析として単純集計、統計値の計算、ヒストグラムの作成などを行います。
10	アンケート調査の分析（1変数の分析）2	複数回答に対する集計を行います。統計値について平均値の差の検定などを行います。
11	アンケート調査の分析（2変数の分析）3	2変数の分析としてクロス集計、複数回答に対するクロス集計を行います。分散分析、カイ二乗検定を行いその意味を理解します。
12	アンケート調査の分析（2変数の分析）4	回帰分析、相関係数を行います。係数、定数に対する検定、また推定区間について意味を理解します。
13	アンケート調査の分析（多変量解析）5	多変量解析（因子分析、判別分析、クラスター分析）を行います。
14	報告書の作成1	アンケートの結果を考察して報告書を作成します。
15	報告書の作成2	引き続き、アンケートの結果を考察して報告書を作成します。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神保健福祉論				
担当者氏名	大倉 高志				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

ライフサイクルと心の健康について基本的な考え方を理解する。さらに我が国の薬物依存・アルコール依存症・自殺やDV等精神保健に関する対策について学ぶ。さらに、地域精神保健の関係機関や活動を通し、専門職の役割と連携による支援展開について学ぶ。家庭・保育所・学校・職場などにおける精神保健の現状と課題を知り、支援方法についても学ぶ。

《授業の到達目標》

ライフサイクルと発達課題・心の健康の基本的考えと支援について理解する。

《テキスト》

我が国の精神保健福祉
発行 太陽美術出版部 ISBN978-4-906276-83-7

《参考図書》

新・精神保健福祉士養成講座 第2巻「精神保健の課題と支援」
日本精神保健福祉士養成校協会編（2012）
中央法規

《授業時間外学習》

月に1回、精神保健に関する新聞記事を切り取り、感想を記述し提出すること。

《成績評価の方法》

レポート・授業姿勢・小テスト（50%）・期末テスト（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	精神保健学の概要について。心の健康について考える。
2	精神保健の基礎知識	基本的人権としての健康・社会構造の変更と健康観・現代社会における健康について学ぶ。
3	ライフサイクルからみた精神保健①	ライフサイクルと発達課題 乳児期～思春期について学ぶ。
4	ライフサイクルからみた精神保健②	ライフサイクルと発達課題 青年期～老年期について学ぶ。
5	生活の場からみた精神保健	家庭・家族との精神保健、学校・職場と精神保健について学ぶ。
6	精神障害に関する知識	症状性を含む器質性精神障害・統合失調症型障害及び妄想性障害などの病態特徴を学ぶ。
7	小児期・青年期の障害	小児および青年期の通常発症する行動および情緒の障害及び特定不能の精神障害
8	精神保健福祉行政のあらまし①	精神保健福祉行政の歩み・歴史について学ぶ①
9	精神保健福祉行政のあらまし②	精神保健福祉行政の歩み・歴史について学ぶ②
10	障害者総合支援法の制定について学ぶ	障害者総合支援法について学ぶ。社会復帰・福祉対策について学ぶ。
11	精神保健福祉に関する行政組織	精神保健福祉に関する行政組織・国・都道府県・保健所における地域精神保健も含めた行財政について学ぶ。
12	精神障害者支援施策	精神医療施策として、医療施設・保護者・入院制度・通院医療等について学ぶ。
13	精神保健福祉における個別課題への取組①	1 自殺対策と取組、2 認知症疾患対策、3 アルコール関連問題対策、4 薬物乱用防止大作について学ぶ。
14	精神保健福祉における個別課題への取組②	5 心神喪失者等医療観察法の概要 6 性同一障害者の性別の取扱いに関する法律 7 発達障害者支援について学ぶ。
15	まとめ	心の健康づくりについて対策と支援について総合的に学ぶ。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神医学 I				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

代表的な精神科疾患についてその症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療がなされているのか、また精神障害者に対してどのような支援が必要であるかについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み (50%)
レポート課題に対する取り組み (50%)

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害の理解	精神疾患の成因と分類について理解する。
2	精神疾患の症状と診断	精神疾患の様々な症状とその状態像を理解すると共に、その診断の手順と方法、検査法について学び、診断の基本的な知識を理解する。
3	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の症状等の差異について理解する。
4	症状性精神障害とてんかん	症状性精神障害とてんかんの症状とその治療について理解する。
5	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコールや薬物、有機溶剤など精神作用物質使用による精神疾患の症状等について理解する。
6	依存症の理解と治療	依存症の理解とその治療法と自助グループの役割について理解する。
7	自助グループ参加者の体験談	自助グループに参加し回復した当事者の体験談を聞いて、自助グループの役割やその働きについて考える。(ゲスト講師予定: AAメンバー)
8	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	統合失調症の症状、病型、及び治療法について理解する。
9	統合失調症患者への支援について	統合失調症患者に対する支援やかかわり方について考える。
10	統合失調症当事者の体験談	統合失調症者の体験談を聞き、統合失調症への理解を深める。(ゲスト講師予定: 当事者)
11	気分障害の症状	気分障害の特徴や症状及びその性格傾向や環境因子等について理解する。
12	気分障害の治療	気分障害の治療とかかわり方の留意点について理解する。
13	精神科医師による精神科治療について	精神療法、薬物療法の実際について理解する。(ゲスト講師予定: 精神科医師)
14	神経症性障害、ストレス関連障害、心身症	心理的原因によって起こる様々な神経症やストレス関連障害、心身症の症状や治療について理解する。
15	精神科リハビリテーション	社会復帰の促進に向けた様々な精神科リハビリテーションの技術、方法について理解する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こども福祉基礎演習 I				
担当者氏名	和山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 恵美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する				

《授業の概要》

幼児教育、保育、こども福祉の基本を個別学習、個別指導形式により学ぶ。学習内容の理解を深めると同時に、自ら調べ、まとめ、そして発表するという個別研究の方法を修得することも目指す。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時間内に必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 幼児教育、保育、こども福祉等についての理解・認識を深めること。
- ② 音楽や造形等の幼児教育・保育に関わる実践力を磨くこと。
- ③ 自主的に学び、そして学んだ事柄をわかりやすくまとめて発表するスキルを獲得すること。

《授業時間外学習》

教員から課された課題をこなすだけでなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%
- ・ 提出された課題に対する評価 80%
- ・ 提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習 I における学びの全体像を提示する。
2	研究発表の方法論を学ぶ	個別研究発表の仕方について学ぶ。特に、文献の収集方法と読み込み方について学ぶ。
3	研究発表の方法論を学ぶ	文献の読み込みや調査等を通じて学んだことのまとめ方と発表の仕方について学ぶ。
4	個別研究のテーマの選定	学生個々が興味・関心あるテーマを選定し、個別研究のリサーチクエストを設定する。
5	音楽表現	音楽活動を通して子どもの発達を支援する方法を学ぶ。
6	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
7	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
8	校外実習	校外学習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの重要性に気づく。
9	校外実習を終えてのふり 返り	校外学習で感じたことを造形活動に昇華する。
10	幼稚園での観察	幼稚園現場を訪問し、幼児教育の現場における実践を観察する。
11	幼稚園での観察を終えて のふり返り	幼児教育の現場における実践を観察したことを受けて、幼児教育についての考察を深める。
12	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
13	個別学習と個別指導	学生自身が設定したテーマに基づいて個別研究指導を行う。
14	研究発表会	個別研究の成果を発表する。
15	研究発表会	個別研究の成果を発表する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こども福祉基礎演習Ⅱ				
担当者氏名	和山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 恵美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

幼児教育、保育、こども福祉の基礎をゼミ形式で主体的に学ぶ。教員の専門領域における最新の知見等に触れることにより、追求すべきテーマを絞り込み、専門演習における学びにつなげていく。また学外実習を通じて、幼児教育・保育に関わる実践力も磨いていく。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考図書》

グループ学習時に、担当教員から適宜紹介される。

《授業の到達目標》

- ①幼児教育、保育、こども福祉の基礎についての理解を確固たるものとする。
- ②演習形式の授業で積極的に発言する等、主体的な学びのあり方について体得すること。

《授業時間外学習》

教員から課された課題をこなすだけでなく、自分自身で疑問を見出し、そして調べることによってその疑問を解決するという自主的な学びを期待する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 20%。
- ・ 提出課題に対する評価 80%。
- ・ 提出期限を過ぎて提出された課題は減点対象となる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉基礎演習Ⅱにおける学びの全体像を提示する。第2回以降において展開されるグループ学習の構成単位となるグループの編成を行う。
2	担当教員の専門領域に関するグループ学習～1	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
3	担当教員の専門領域に関するグループ学習～2	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
4	担当教員の専門領域に関するグループ学習～3	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
5	担当教員の専門領域に関するグループ学習～4	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その4）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
6	担当教員の専門領域に関するグループ学習～5	少人数制の演習形式の授業（第1サイクル その5）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
7	校外実習	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、季節と幼児教育ならびに保育の内容とをリンクさせることの意義を考える。
8	校外実習のまとめ	校外実習を終えてのふり返りを行うとともに、保育実践への昇華を試みる。
9	保育の実践	幼稚園現場を訪問し、園児たちと活動を共にすることにより、幼児教育・保育の実践力を高める。
10	担当教員の専門領域に関するグループ学習～6	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その1）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
11	担当教員の専門領域に関するグループ学習～7	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その2）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
12	担当教員の専門領域に関するグループ学習～8	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その3）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
13	担当教員の専門領域に関するグループ学習～9	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その4）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
14	担当教員の専門領域に関するグループ学習～10	少人数制の演習形式の授業（第2サイクル その5）。数名から成るグループを5つ編成し、グループごとに専任教員一名が付いて演習形式の授業を行う。
15	こども福祉基礎演習のまとめ	こども福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を総括し、こども福祉専門演習に向けての準備態勢を整える。

科目名	こどもの心理学Ⅱ				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを知る必要もある。子ども時代に焦点を絞って、発達のプロセスと発達支援のあり方について学んでいく。

《授業の到達目標》

- 子ども心身の発達と保育実践について理解すること。
- 普段の生活と遊びを通した学びのプロセスについて理解すること。
- 子どもの発達を支援する働きかけについて理解すること。

《成績評価の方法》

- ・提出課題に対する評価 50%
- ・定期試験の評価 50%
- ・提出課題は、提出するだけで得点を得られるのではなく、内容を伴わなければ得点は得られない。提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その1）。
3	子どもの発達の理解	保育所保育指針の記述に基づいて乳幼児期の発達の流れを再確認する（その2）。
4	発達の個人差	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。
5	環境の重要性と環境としての保育者	子どもたちの発達にとって環境がどれだけ重要であるかを再認識するとともに、保育者という人的環境の重要性について学ぶ。
6	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する（その1）。
7	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“母なるもの”との出会いの持つ意味について理解する（その2）。
8	子どもの発達と出会い	子どもの健やかな発達にとって“父なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
9	子どもの発達と出会い	人間関係の範囲が仲間関係へと広がっていく幼児期から児童期にかけての子どもたちの発達にとって、“友なるもの”との出会いの持つ意味について理解する。
10	集団の中の1人として	集団の構造と機能について学ぶとともに、子どもたちが集団生活の中で経験・学習することについて学ぶ。
11	子どもの生活と学び	「学習」のメカニズムについて学ぶとともに、子どもたちは日常生活で何をどのようにして「学習」するのかについて学ぶ。
12	生活習慣の獲得とその援助	子どもたちが基本的な生活習慣を獲得していくに際して、保護者や保育者はどのように援助すればよいのかを「学習」の観点から学ぶ。
13	遊びと学び	子どもたちの発達にとって遊びがいかに重要かを再認識するとともに、子どもの遊びに保育者はどのように関わっていけばよいかを考える。
14	生きる力の基礎を培う	「生きる力」とはどのような力を指すのか、という問いに対する回答を探るとともに、そのような力はどのようにして身につけていくのかを考える。
15	就学への支援～発達は続く	子どもたちが保育所や幼稚園を卒園した後も発達し続けることは言うまでもない。望ましい就学支援の在り方について考える。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』 本郷一夫（編） 建帛社 2011
- 『発達心理学で読み解く保育エピソード—保育者を目指す学生の学びを通して』 若尾 良徳・岡部 康成 北樹出版 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	乳児保育 I				
担当者氏名	徳永 満理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

保育所・乳児院・家庭における「乳児保育」を学ぶ。乳児保育の歴史、現状、課題を学び、保育所の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。0. 1. 2歳児の発達の道すじと保育の方法について学ぶ。

《テキスト》

『乳児の保育新時代』ひとなる書房
 『保育所保育指針解説書』
 『保育資料集2014』ミネルヴァ

《参考図書》

適宜、講義時紹介する。

《授業の到達目標》

- 乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今に今日的な課題を考察する
- 0歳児（出生）から2歳児（3歳半頃）までの子どもの発達を理解する
- 乳児保育の保育内容をビデオと演習をを通して理解する

《授業時間外学習》

乳児の発達に基づいた手づくりおもちゃを作成する。
 乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方を提起する。
 保育所など乳児のいるところに行きできるだけ触れるようにする。

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書・資料、持ち込み可とする） 70%
 作品・レポート提出・授業内発表 20%
 授業中の態度 10%

《備考》

- ・正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
- ・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
- ・提出物の期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンション	○乳児の概念、乳児保育の概念について ○ビデオ『赤ちゃんからのメッセージ』
2	乳児保育の歴史と現状	○女性労働と乳児保育の関わり ○乳児保育への期待と課題
3	乳児の発達 I	新生児から0歳児前半 ビデオ －母子関係の形成と人間らしさの発見－
4	乳児の発達 II	0歳児後半 ビデオ －0さいじの発達の道すじと特徴－
5	乳児の発達 III	1歳児 ビデオ －1歳児の発達の道すじと特徴－
6	乳児の発達 IV	2歳児 ビデオ －2歳児の発達の道すじと特徴－
7	0歳児の生活と保育者の関わり	食事、排泄、睡眠、言生活、保健等 ビデオ
8	1、2歳児の生活と保育者の関わり	基本的な生活習慣の自立
9	0、1、2歳児のあそびと保育者の関わり	あそびいろいろ
10	あそびの演習①	手づくりおもちゃの作成
11	あそびの演習②	お散歩いろいろ
12	乳児保育と計画	デイリープログラム ビデオ 記録について
13	家庭との連携	保護者への援助、家庭・地域との連携方法
14	乳児と家庭を取り巻く現状	地域子育て支援を考える
15	授業のまとめ	授業のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当者氏名	徳永 満理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

- ・乳児保育Ⅰで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達の道すじをより深く学び理解する
- ・保育園・乳児院における保育内容を学び、生活と遊びのスキルを身につける
- ・乳児を養育する保護者への思いとその援助の方法を身につける

《授業の到達目標》

- ・乳児保育Ⅰで学んだ0歳児～2歳児乳児の発達の道すじをより深く理解し、発達に沿う保育内容について学び実践力をつける
- ・乳児保育の指導計画作成し、適切な援助活動ができるようになる
- ・事例を通して多様な保育ニーズを知り、保護者支援について理解し実践力を身につける
- ・乳児保育を豊かに展開するための教材について学び、作成の技術を身につける。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 60%
- 作品・課題レポート 30%
- 授業態度 10%

《テキスト》

- 『保育者が基礎から学ぶ乳児の発達』かもがわ出版
- 『保育所保育指針解説書』
- 『保育所資料2014』ミネルヴァ

《参考図書》

- 『乳児の保育新時代』ひとなる書房
- 『保育園の美味しい離乳食』かもがわ出版
- 『子どもと楽しむ 手あそび わらべうた』かもがわ出版
- 『よくわかる0～5歳児絵本読み聞かせ』チャイルド本社
- 『うきうきわくわく手づくりおもちゃ』かもがわ出版

《授業時間外学習》

- ・教科書、参考文献など、乳児を理解するために読む読んでおくこと
- ・配布資料は大切に保管し良く目を通しておくこと
- ・作品は完成度を意識して作成すること

《備考》

- 理由のない遅刻・欠席は認めない、私語は厳禁、提出物は期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、履修上の諸注意 乳児の概念
2	発達のとらえ方	子どもの発達を理解する基本的視点
3	対人関係の土台をつくる①	乳児前半の発達と保育の課題①
4	対人関係の土台をつくる②	乳児前半の発達と保育の課題②
5	乳児期前半から後半への飛躍を大切に①	乳児期後半（前期）の発達と保育の課題①
6	乳児期前半から後半への飛躍を大切に②	乳児期後半（前期）の発達と保育の課題②
7	1歳半の節を超える力の芽生えを大切に①	乳児期後半（後期）の発達と保育の課題①
8	1歳半の節を超える力の芽生えを大切に②	乳児期後半（後期）の発達と保育の課題②
9	保育実践と発達相談	発達相談とは、保育実践における発達診断・発達診断
10	保育計画について	保育計画の構造 保育課程と指導計画
11	指導計画	指導計画の構造 年間指導計画 月案 週案 日案 評価と反省
12	指導計画	指導案作成 0歳児保育の指導案
13	指導計画	指導案作成 1歳児保育の指導案
14	指導計画	指導案作成 2歳児保育の指導案
15	乳児を取り巻く現状と課題	家族、地域社会の現状と子育て支援 家族援助・育児支援・地域の育児支援

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育 I				
担当者氏名	小林 洋司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

本授業では、障害について理解を深めるとともに、障害児保育の考え方と実践について学習する。

《テキスト》

適宜指示します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

障害を多角的に考察することを通して、障害のある子どもに関する理解を深めるとともに、周囲の親、支援者等の役割や関わりについての理解できるようになる。

《授業時間外学習》

障害に関わるニュースや記事に気を配り、学習を深めておくこと。

《成績評価の方法》

試験（50%）と小レポート（50%）によって評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法
2	障害児保育を学ぶ	障害児保育における大きな柱
3	障害児保育の歴史	障害児保育のなりたち
4	障害児保育を実践する人	保育者の立ち位置について
5	発達とは	子どもの発達について
6	障害についての理解と実際1	身体障害の理解
7	障害についての理解と実際2	身体障害児の保育
8	障害についての理解と実際3	知的障害の理解
9	障害についての理解と実際4	知的障害児の保育
10	障害についての理解と実際5	発達障害の理解
11	障害についての理解と実際6	発達障害児の保育
12	病気についての理解1	病児の理解
13	病気についての理解2	病児への支援
14	地域社会について	地域社会にある支援を概観する
15	学習のまとめ	本授業での学習を整理する

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	障害児保育Ⅱ				
担当者氏名	小林 洋司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題等を踏まえながら障害を理解しようとする構えと、実践的な技能及び認識を高めることをめざして学習することである。

《テキスト》

適宜指示します。

《参考図書》

適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して保育者として障害児/者や彼らを取り巻く人々とどのように接し、行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

障害児者をめぐる課題について情報収集を行うこと

《成績評価の方法》

試験（50％）と小レポート（50％）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念1	障害とは何か
3	障害の概念2	障害とイメージ
4	障害の概念3	障害と福祉
5	障害児保育の現状と課題1	福祉・教育
6	障害児保育の現状と課題2	保健・医療
7	障害児保育の現状と課題3	障害児保育と専門性
8	障害児の支援1	発達障害と虐待 ー保育者としての対応ー
9	障害児の支援2	発達障害と虐待 ー関係機関との連携ー
10	障害児の支援3	ケーススタディ①
11	障害児の支援4	ケーススタディ②
12	障害児を取り巻く人々の支援1	保護者の支援
13	障害児を取り巻く人々の支援2	きょうだいの支援
14	支援のための環境づくり	障害児が生活しやすい社会づくり
15	学習のまとめ	学習のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	相談援助				
担当者氏名	大西 雅裕				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせることで、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《テキスト》

橋本好市・直島正樹「保育実践に求められるソーシャルワーク」 ミネルヴァ書房

《参考図書》

赤木正典、大西雅裕「相談援助セミナー」建帛社
 対人援助実践研究会編「77のワークで学ぶ対人援助ワークブック」久美出版

《授業の到達目標》

- ①相談援助の基本的な知識を身につける
- ②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
- ③援助者として必要な実践力を身につける。

《授業時間外学習》

講義については、資料を作成し配布いたします。そして授業にむけての予習及び復習を丁寧に行ってください。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
 授業中に課すレポートと小テスト20% 合計100%

《備考》

授業では受け身ではなく、自分自身で考え、それを文字や言葉やその他の方法を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ
5	対人援助の原則①	相談援助における対人援助の原則について学ぶ①
6	対人援助の原則②ソーシャルワーク実践の方法	原則について学ぶ② ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ
9	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ
11	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ
15	学習のまとめ及び筆記試験	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	藤本 政則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての役割についても理解する。

《テキスト》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《参考図書》

《授業の到達目標》

保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
 授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が3割、「2」が7割とする。

1. 授業態度、単位取得に対する意欲等の評価。2. 筆記試験による評価（単位取得に必要な知識等を評価。試験問題は主に語句説明ならびに論述問題によって構成）。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
 授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。
2	家庭や社会の役割①	子どもにとって家庭や社会の役割について考える。
3	家庭や社会の役割②	社会の役割と児童養護について考える。
4	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する
5	児童養護の歴史①－欧米の児童養護の変遷－	欧米における児童養護の変遷を理解する。
6	児童養護の歴史②－日本の児童養護の変遷－	日本における児童養護の変遷を理解する。
7	児童養護の領域－養護系施設①－	児童養護施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
8	児童養護の領域－養護系施設②－	乳児院、母子生活支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
9	児童養護の領域－障がい系施設①－	知的障害児施設や盲ろうあ児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
10	児童養護の領域－障がい系施設②－	肢体不自由児施設や重症心身障害児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
11	児童養護の領域－その他の施設①－	児童自立支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
12	児童養護の領域－その他の施設②－	情緒障害児短期治療施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
13	家庭養護としての里親養育①	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。
14	家庭養護としての里親養育②	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	社会的養護内容				
担当者氏名	藤本 政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が4割、「2」が6割とする。

1. 授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち①	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち②	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは①	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは②	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応①	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応②	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応③	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応④	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応⑤	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア①	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア②	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア③	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健 I A				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

子どもの健康について、身体面、精神面、社会面から理解し、専門職者としてどのように関わっていくのが望ましいのかを考える力をつける。

《テキスト》

こどもの保健 I (ななみ書房)

《参考図書》

適宜指示します。

《授業の到達目標》

1. 心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 身体発育や生理・運動・精神機能の発達と保健を理解する。
3. 疾病とその予防法、適切な対応について理解する。
4. 精神保健とその課題について理解する。
5. 保育における環境、衛生・安全管理について理解する。
6. 施設等における子どもの心身の健康・安全の実施体制を理解する。

《授業時間外学習》

課題を行い、期限内に提出する。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験：60%
- ・課題：40%
- ・その他：他の受講生に迷惑をかける態度が見られる場合は、100点以下の減点とします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と保健の意義	子どもを対象にした保健活動の意義について理解する。
2	健康の概念と健康指標	健康とは何か、子どもにとっての健康について考えることができる。
3	子どもの発育発達 ①乳児期	各期の発育発達と課題について理解する。
4	子どもの発育発達 ②幼児期	各期の発育発達と課題について理解する。
5	子どもの発育発達 ③学童期	各期の発育発達と課題について理解する。
6	子どもの発育発達 ④青年期	各期の発育発達と課題について理解する。
7	子どもの主な疾病 ①感染症	子どもがかかりやすい主な疾病について理解する。
8	疾病の予防と対応	疾病の予防方法について理解する（予防接種含む）。
9	子どもの生活環境と精神保健	子どもの生活環境と精神保健の関係について理解する。 中間テスト
10	子どもの心の健康	子どものメンタルヘルスについて考える。
11	地域における保健活動	行政で行われている保健活動について理解する。
12	地域における子育て支援活動	行政以外で行われている子育て支援活動について理解する。
13	環境・衛生・安全管理	子どもの健康と環境・衛生・安全管理との関わりについて理解する。
14	健康及び安全の実施体制	健康及び安全の実施体制について、各関係者でのあり方について理解する。①職員間 ②母子保健対策と保育 ③家庭・地域との連携
15	まとめ	子どもの健康についての展望について考える。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健 I B				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

子どもの健康について、身体面、精神面、社会面から理解し、専門職者としてどのように関わっていくのが望ましいのかを考える力をつける。

《テキスト》

こどもの保健 I (ななみ書房)

《参考図書》

適宜指示します。

《授業の到達目標》

1. こどもの精神保健とその課題について理解する。
2. 保育における環境、衛生・安全管理について理解する。
3. 施設等におけるこどもの心身の健康・安全の実施体制を理解する。

《授業時間外学習》

課題を行い、期限内に提出する。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験：60%
- ・課題：40%
- ・その他：他の受講生に迷惑をかける態度が見られる場合は、100点以下の減点とします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こどもの生活環境	こどもの生活環境と保健の関係について理解する。
2	こどもの精神保健	こどもの精神保健の特徴について理解する。
3	こどもの心の健康づくり	こどものメンタルヘルスの課題について考えることができる。
4	事例①	こどもの精神保健に関する事例を基に健康を考える。 ・拒食症
5	事例②	こどもの精神保健に関する事例を基に健康を考える。 ・発達障害
6	地域における保健活動	行政で行われている保健活動について理解する。
7	地域における子育て支援活動	行政以外で行われている子育て支援活動について理解する。
8	子どもと環境	子どもにとっての健康な環境について考えることができる。
9	子どもと衛生	子どもにとっての衛生について考えることができる。
10	子どもと安全管理	子どもにとっての安全について考えることができる。
11	健康及び安全の実施体制 ①職員間	健康及び安全の実施体制について、各関係者でのあり方について理解する。
12	健康及び安全の実施体制 ②母子保健対策と保育	健康及び安全の実施体制について、各関係者でのあり方について理解する。
13	健康及び安全の実施体制 ③家庭・地域との連携	健康及び安全の実施体制について、各関係者でのあり方について理解する。
14	ディスカッション①	こどもの健康についての現状と課題について考える。
15	ディスカッション②	こどもの健康についての展望について考える。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの保健Ⅱ				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

子どもの発育・発達・健康について正しい知識を身につけることができるように、講義と演習を通し学習する。

《テキスト》

こどもの保健演習ノート（診断と治療社）

《参考図書》

こどもの保健Ⅰ（ななみ書房）

《授業の到達目標》

1. 子どもの発育について正しい知識を身につける。
2. 子どもの発達について正しい知識を身につける。
3. 子どもの健康について正しい知識を身につける。
4. 子どもの健康支援の具体的な技術を身につける。

《授業時間外学習》

別途指示する。

《成績評価の方法》

筆記試験 60%
課題 40%

《備考》

スキルを身につけるように、積極的に学習してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発育	子どもの発育の過程と測定方法の知識を理解する。
2	子どもの発育測定	＜演習＞実際にモデルを用いて測定を行う。演習後レポートを書き学びを振り返る。
3	子どもの生理機能	健康な子どもの状態について理解する。
4	子どもの発達	子どもの発育の過程と評価方法の知識を理解する。
5	子どもの発達測定	＜演習＞事例を用いて子どもの発達について評価を行う。演習後レポートを書き学びを振り返る。
6	日常における養護の方法	子どもの抱き方、日常のケアについて留意すべきポイントを理解する。
7	子どもの保育環境づくり	施設環境、生活スペース、健康を守る環境づくりについて理解する。
8	子どもがかかりやすい疾患	かかりやすい疾患の種類と症状、ケアの方法について理解する。
9	起きやすい事故	発育発達と合わせて発生しやすい事故とその予防方法について理解する。
10	子どもに起こりやすい外傷	子どもに起こりやすい外傷の種類と症状、ケガの処置について理解する。
11	応急処置	重症のケガに対する応急処置の種類と対処方法について理解する。
12	応急処置の実際	＜演習＞子どもを対象にした心肺蘇生法の実際を学ぶ。演習後レポートを書き学びを深める。
13	子どもの慢性疾患	子どもの慢性疾患の種類と症状、ケアについて理解する。
14	子どもの健康づくり	子どもの生活の実態と課題を考える。
15	まとめ	全体の振り返り、小テスト

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと健康				
担当者氏名	近藤 正子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

子どもの生活習慣病など、現代の子どもの健康に様々な問題が問題となっている。保育実践者として、子どものからだところの健康的な成長を促す保育に必要な知識と技術について学ぶ。本授業では、「書く」ことで自ら考える力を養い、また、グループワークを重視し、他者と意見を交わすことで柔軟な思考力を高めることも目的とする。

《テキスト》

『保育内容「健康」』高内正子他編、保育出版社

《参考図書》

随時、授業内で推薦する。

《授業の到達目標》

- 「健康」とは何かについて、深い理解を持つ。
- 子どものこころとからだの健康をささえる保育とはどのようなものか、自然や行事、遊びや運動など様々な観点から保育計画をたてる事が出来る。

《授業時間外学習》

日頃から「健康」に関する時事問題について意識を高めて情報を収集しておくこと。授業内で折に触れて確認する。また、グループワーク前には課題を出すので、十分な準備をしておくこと。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験60% (テキストの持ち込みは不可、必要な資料については事前に指定する)
- (2) 平常点30% (学習準備や課題への取り組み、提出物、グループワークでの積極性等)
- (3) その他10% (授業参加態度、受講態度)

《備考》

子どもの「健康」を理解するためにまず、自分自身の健康に対する意識を高めておくことが必要である。日々の健康的な生活を心がけることを望む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス・領域「健康」とは	領域「健康」、基本的生活習慣、成長曲線、少子化時代
2	保育行事と子どもの健康 ①伝統的民族行事	年中行事、通過儀礼、ハレとケ、代表的な伝統行事の由来
3	保育行事と子どもの健康 ②保育行事	保育行事の分類、年間行事計画、代表的な保育行事
4	食生活と子どもの健康① 現代の子どもの食生活	現代の子どもの食生活、朝食の役割、好き嫌い
5	食生活と子どもの健康② 子どもの食事、おやつ	食物アレルギー、子どもの生活習慣病、おやつ
6	自然環境と子どもの健康	自然の中での遊びと学び、園の内外の自然、天候・気候、動物の飼育
7	子どもの遊びと健康	バーテンの遊びの分類、昔遊び、室内遊び、集団遊び
8	子どもの運動指導の実際 ①発達、体力・運動能力	基本的動作、運動能力テスト、調整力テスト、体力の概念
9	子どもの運動指導の実際 ②運動指導の実際	土踏まずの形成、基本的運動技能の発達、運動能力
10	子どもの運動指導の実際 ③運動指導実践	様々な運動遊び（ボール、縄、鉄棒、マット、プールなど）サーキット遊び
11	子どものこころの健康① 子どものこころの発達	こころの発達、養育態度、マズローの欲求階層説、問題行動の理解
12	子どものこころの健康② 子どものストレス反応	虐待、愛情遮断症候群、子どもの権利条約、虐待の早期発見に向けて
13	子どもと性・いのち	性教育、性同一性、性意識の発達、「死」の教育
14	子どもの安全教育	子どもの事故、リスクマネジメント、安全教育、安全管理、避難訓練、交通安全教育
15	まとめ	幼稚園教育要領、健康とは、指導計画に活かす

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと人間関係				
担当者氏名	荘司 泰弘				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 				

《授業の概要》

幼稚園教育要領に定める人とのかかわりに関する領域、「人間関係」の内容を理解し、こども同士の交流による発見学習環境を考察する。人間だけが生きているのではないことをこども達に伝えるために、部分的全体の概念を学ぶ。子育て支援活動のためのカウンセリングマインドを身に付けるため、エンカウンター・トレーニングに参加する。

《テキスト》

教科書は使わない。学生からの質問に応じて適宜参考資料を配布する。

《参考図書》

参考文献はデータベース (<http://www.froebel.ne.jp>) から適宜指示する。

《授業の到達目標》

人間性の基本として愛・感謝・信頼・純心の気持ちをこども達に伝える。エンカウンター・トレーニングを通して相談者の気持ちを共感・受容できるように自己一致する。

《授業時間外学習》

ストレス解消法の適用とエンカウンター・トレーニングの応用による自己改革。

《成績評価の方法》

平常点50%、保育指導案20%、エンカウンター・トレーニング30%

《備考》

エンカウンター・トレーニング受講のためにストレスの解消法を受講しておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間関係の援助	外部から指導された人間関係は指導者がそばにいないと発揮されない。こどもの試行錯誤体験を保育者が支援して初めて自立できることを説明する。
2	領域内容の変遷	昭和39年の領域「社会」から、平成元年の領域「人間関係」、平成10年と平成20年の幼稚園教育要領を比較し、変遷の経緯と理由を概説する。
3	部分的全体	人間関係の基礎基準に競争原理を置くのではなく、「みんなちがってみんないい」という共同原理に基づいた部分的全体の発想を紹介する。
4	生命と人間性	人間だけが生きているのではなく、生命は支えあって生きていることを確認し、生命に溢れた保育環境からこども達は人間性を学ぶことを説明する。
5	異年齢児の交流	異年齢同集団の関わりの中で、こども達は人間関係を学習することを説明し、保育者が20歳児としてかかわる必要性を確認する。
6	保育者の資質	保育者が「遊ぶ大人」として自己一致・無条件の受容・感覚の共有ができる「あるがまま」の生き様を提示する意義を説明する。
7	母子分離と社会性	母子関係の変容に伴う母子分離が他者との人間関係に不可欠であることを説明し、守る⇒見守る⇒見るという立ち位置の変化を勧める。
8	仲間関係と集団規律	こども達の自我がぶつかり合う学習環境の調整ポイントを説明し、規律は与えられるものではなく、試行錯誤体験が生み出すことを確認する。
9	気になる子の援助	要特別支援児の援助には、「みんなちがってみんないい」という評価抜きの視点が大切であることを確認する。
10	ストレスの解消法	太極拳・ヨガ・整体を組み合わせます。ジャージで来てください。イメージを操作してクライシス状態から復帰する方法を学ぶ。
11	エンカウンター・トレーニング ①	カール・ロジャーズが開発した非構成的エンカウンター（予め課題が用意されていない）トレーニングを行う。
12	エンカウンター・トレーニング ②	あるがままの自分を出し、無条件に相手を受け入れ、感覚を共有するトレーニングをする。
13	エンカウンター・トレーニング ③	ファシリテーターを誘導することにより、自己崩壊の傾向と限界を体験する。トラウマにならないように攻撃・防衛・逃避機制をコントロールする。
14	子育て支援相談	保育現場における子育て支援のための保育相談を模擬体験する。
15	まとめ	乳児・幼児・児童に共通する発達傾向（アニミズム・感情移入）を通した人間性の育成ポイントを確認する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽表現				
担当者氏名	中島 龍一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

こども教育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかななくてはなりません。また、教育現場が多様化している現在、様々な状況の中で、一人ひとりに偏りなく接する必要があります。これらを踏まえて、音楽を多角的に捉える力を養い、それを更に深く学びます。

《授業の到達目標》

- 多くのこどもの歌を弾き、うたうことができる。
- こども教育者として必要とされる音楽の基礎知識と応用技術能力を身につけることができる。
- 「歌・言葉・遊び」を融合した音楽表現ができる。
- 様々な音楽を総合的に捉え、臨機応変に使うことができる。

《成績評価の方法》

実技・課題提出点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》

『おんがく玉手箱』
 『Cookin' Music 基礎から始める音楽づくり』
 『うたのメルヘン』（以上、共同音楽出版社）

《参考図書》

資料等は、必要に応じて指示・配布します。

《授業時間外学習》

音楽表現には様々な方法があります。授業で学んだことをしっかりと復習し、自分のものとして表現できるように身に付けましょう。

《備考》

- ①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
- ②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容の説明、子どもの歌とその表現法について。
2	歌うことの大切さ(1)	春の歌。テキストの中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
3	歌うことの大切さ(2)	夏の歌。テキストの中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
4	歌うことの大切さ(3)	秋の歌。テキストの中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
5	歌うことの大切さ(4)	冬の歌。テキストの中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
6	歌と表現(1)	2才児以下に使える手遊びや、音楽表現法を学ぶ。
7	歌と表現(2)	3才児以上に使える手遊びや、音楽表現法を学ぶ。
8	歌と表現(3)	簡単にできる手話による歌や、音楽表現法を学ぶ。
9	歌と表現(4)	ストーリー性のある子どもの歌の手話等による音楽表現法を学ぶ。
10	歌と創作(1)	子どもの歌による創作絵本の作成。選曲、歌い込み、素材の考案。
11	歌と創作(2)	子どもの歌による創作絵本の作成。ページの割り振り、コンテ作成。
12	歌と創作(3)	子どもの歌による創作絵本の作成。総合作成実践。
13	歌と創作(4)	子どもの歌による創作絵本の作成。色塗り、貼り付け作業等の仕上げ。
14	歌と創作(5)	子どもの歌による創作絵本の作成。作成物の実践演習。
15	総まとめ	研究発表と総まとめ。(音楽表現による個人研究発表。)

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと言語表現				
担当者氏名	前田 美智代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

本講では、人間の言葉の獲得についての基本的な知識を習得する。また、保育の場において子どもの言葉の育ち・言語表現の望ましいあり方を支援するための保育者に求められる具体的な活動や態度について、事例や実践を取り入れながら学ぶ。

《テキスト》

保育内容「言葉」柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編 ミネルヴァ書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省
『保育所保育指針』厚生労働省

《授業の到達目標》

- ・子どもの言語表現を豊かに支援する方法・技術が習得できる。
- ・子どもの発する言語から子どもの内面理解が深まる。
- ・教職（保育）に対する自らの適性を探求し、実践者としての意欲を高めることができる

《授業時間外学習》

- ・適宜課題を出すので、課題について深く考えたり、調べたりすること。
- ・授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておくこと。

《成績評価の方法》

- ①授業内討議や発表などへの参加・態度と成果20%
- ②レポート課題等の提出30%（提出遅れは減点）
- ③筆記テスト50%

《備考》

- ・子どもの話し言葉に耳を傾ける習慣を身につける。
- ・豊かな言葉を聞いたときは、メモを取っておく
- ・絵本や童話等をよく読みこなす。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法等のガイダンス。
2	言葉の果たす役割	人間にとっての言葉の果たす役割について理解する。
3	領域「言葉」について	領域「言葉」についての基本的な考え方を理解し、子どもにとっての言葉の獲得の意義を知る。
4	言葉の発達過程	子どもは誕生時からどのように言葉を獲得するのか、子どもの発達の過程と言葉のかかわりについて学びを深める。
5	言葉の発達①	言葉の発達のとらえ方と子どものかかわりについて学ぶ。（乳児）
6	言葉の発達②	言葉の発達のとらえ方と、子どものかかわりについて学ぶ。（幼児）
7	言葉と人間関係	言葉の育ちにかかわる諸課題をとらえ、言葉と人間関係・コミュニケーションについて学ぶ。
8	言語表現と身体表現	乳幼児期には、言語表現の前に身体による表現がよく見られる。言語表現と身体表現のかかわりを探りながら乳幼児の内面を探る手法を習得する。
9	豊かな言語表現を育む①	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（乳児への語りかけ）
10	豊かな言語表現を育む②	豊かな言語表現を支える保育者の役割について、保育の場における実践例を挙げながら援助の仕方を学ぶ（幼児への語りかけ）
11	言葉を育む活動①（素話）	各自が乳幼児に向けた素話を作成する。豊かな言葉表現に力点を置きながら、素話が作成できる力量を付ける。
12	言葉を育む活動②（紙芝居）	紙芝居を通して子どもが言葉の意味を理解したり、ストーリーを理解するための伝え方や読み方を学ぶ。
13	言葉を育む活動③（絵本）	絵本を通して子どもがその言葉の内容を理解し、話の世界・情景等を感じ取れる指導法をさぐる。
14	言葉を育む実践④（歌唱）	豊かな言葉で表現されている童謡やわらべ歌等について、その内容を理解し子どもへの歌唱指導や歌遊びへの指導法を知る。
15	まとめ	これまでの授業のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと生活				
担当者氏名	安藤 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

こどもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する

《テキスト》

『小学校学習指導要領解説 生活編』（文部科学省）日本文教出版

《参考図書》

随時紹介

《授業の到達目標》

- ・こどもを取り巻く生活環境などについて理解する
- ・学習指導要領をもとに生活科の目標や学習内容を理解する
- ・具体的な教材や活動について理解する
- ・こどもへの危機管理について理解する

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験 60%
 毎回の講義後に実施するアンケート 20%
 各分野の学習後に課すレポート 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活科の総説	改定の経緯、趣旨、要点
2	生活科の教科目標 生活科の内容講成	教科目標の構成や趣旨 基本的視点、具体的視点、内容の構成要素と階層性等
3	生活科の内容(1)(2)	学校(園)の様子及び先生など学校(園)生活を支えている人々や友だちが分かる 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに関心をもつ
4	生活科の内容(3) (4)	自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわること 公共物や公共施設を利用する
5	生活科の内容(5)(6)	身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりする 身近な自然を利用したり、物を使って遊びや遊ばしに使う物を工夫してつくる
6	生活科の内容(7)(8)	動物を飼ったり植物を育てたりする 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝えあう活動を行う
7	生活科の内容(9)	自分自身の成長を振り返る
8	計画作成と内容の取扱い (1)	指導計画作成上の配慮事項
9	計画作成と内容の取扱い (2)	内容の取扱いについての配慮事項
10	指導計画と学習指導 (1)	指導計画の作成
11	指導計画と学習指導 (2)	指導の特質
12	年間指導計画の作成 (1)	児童の実態に対応する
13	年間指導計画の作成 (2)	地域の環境をいかす
14	単元計画の作成	内容の組合せ、活動の組織化、発達成長への配慮等
15	学習指導のすすめ方	振り返り表現する機会を設ける、伝えあい交流する場を試行錯誤や繰返す活動を設定する、児童の多様性を生かす

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こども文化論Ⅱ				
担当者氏名	高橋 司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

さまざまなこども文化財を保育活動の中で展開できるように概説するとともに、自らもこども文化財の創作を試み、発表（模擬保育）を通して、こども文化の精神（こころ）養う。

《テキスト》

『児童文化と保育』高橋司 宮帯出版社

《参考図書》

『乳幼児のことばの世界』高橋司 宮帯出版社
 『童話の語り発達史』勢家肇・高橋司ほか 海鳥社
 『パネルシアター保育・実践講座』高橋司 大東出版社

《授業の到達目標》

こどもの健全育成に資するこども文化財の高いスキルを習得するとともに、保育者としての感性や創造性を育む。

《授業時間外学習》

日頃からこどもの歌や遊びに興味・関心をもつ人でいてほしい。

《成績評価の方法》

定期試験 50% 創作作品・発表内容 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代のこどもの生活とこども文化	現代におけるこども文化の重要性
2	こども文化の精神	創作への心構え
3	こども文化を創る1（パネルシアター）	グループ分けして企画
4	こども文化を創る1（パネルシアター）	作品の選択、創作
5	こども文化を創る1（パネルシアター）	創作・練習
6	模擬保育	グループごとの発表・評価
7	こども文化を創る2（エプロンシアター）	グループ分けして企画
8	こども文化を創る2（エプロンシアター）	作品の選択・創作
9	こども文化を創る2（エプロンシアター）	創作
10	こども文化を創る2（エプロンシアター）	創作・練習
11	模擬保育	グループごとの発表・評価
12	おはなしを語る1	素話の素材の探究
13	おはなしを語る2	3歳児クラスと仮定して素話を上演
14	こども文化の現状と課題	あそび文化の衰退をこどもの危機と捉える
15	こども文化Q&A	こども文化についての質疑応答

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育課程総論				
担当者氏名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を学修します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成ができることを目的とします。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養います。

《授業の到達目標》

- 教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
- 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画を作成する。
- 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性との関係について学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果、20%
- (2) レポート課題等の提出物 30% (提出遅れは、減点する)
- (3) 筆記テスト50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程(3)	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際(1)	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際(2)	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《テキスト》

『保育課程論』民秋 言、無藤 隆(編) 北大路書房 2011

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省、2008
 『保育所保育指針』 厚生労働省、2008
 『人の教育』小原國芳 荏司雅子(監修)
 玉川大学出版部 1976

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめること。

《備考》

- ・幼稚園・保育所・認定子ども園などに関する情報(新聞、ニュースなど)を常に意識して収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育内容総論				
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

テキストや資料、具体的事例を基に幼児理解を深め、保育活動の組み立てに関する講義を行う。実践演習と省察を通して保育技術を培う。

《テキスト》

民秋言他『保育内容総論』北大路書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育内容を総合的にとらえ考察する視点を養う。
- 保育活動の計画・展開・評価について具体的事例や演習を通して理解を深める。
- 保育の現代的課題について自分なりの問題意識を明確にする。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

受講態度（20%）、課題提出物等（20%）、模擬保育（30%）、筆記試験（30%）の総合評価。課題の提出は期限厳守。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の内容と特性、目標を理解する。
2	幼児理解	幼児理解を深めるための視点について考察する。
3	保育内容の歴史的概観	保育内容の歴史的変遷を理解し、現代保育の位置づけを考察する。
4	子どもの生活と遊び	保育における子どもの生活、遊びが持つ意味を考察する。
5	領域と保育内容	領域の特性を理解し、保育内容との関連について考察する。
6	保育内容の計画	活動計画の意義と方法を理解する。
7	活動の展開と保育における指導の特質	保育における指導の特質を理解し、活動計画立案の視点を獲得する。
8	保育の評価と記録	評価及び記録の意義と方法を理解する。
9	事例研究…室内活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
10	事例研究…戶外活動	視聴覚教材を用いた実践例を通して、これまでに学んだことの整理と総括を行う。
11	模擬保育の実施と反省（3歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
12	模擬保育の実施と反省（4歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
13	模擬保育の実施と反省（5歳児対象）	実際の模擬保育を通して、子どもの発達に応じた活動の計画・展開・省察を経験する。
14	保育の現代的課題	現代の保育を取り巻く様々な課題について、各自の問題意識を明確にする。
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する				

《授業の概要》

人は生まれてから実にたくさんを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』 鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012
 『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』 藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
 『よくわかる発達障害 第2版』 小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その1	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その2	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	青年期の発達の理解	思春期・青年期の心理的特徴について学ぶ。
15	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	幼児理解				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに対してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《テキスト》

『新・保育講座③ 幼児理解と保育援助』
森上史郎・浜口順子（編） ミネルヴァ書房 2003

《参考図書》

『子ども理解と援助 ―子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際―』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著）
保育出版社 2004

《授業の到達目標》

- 子どもの内面世界を理解することの重要性について理解すること。
- 子どもの内面世界を理解するための方法について熟知すること。
- 子どもの健全な発達のために保護者支援が必要であることを理解し、保護者支援のあり方について理解を深めること。

《授業時間外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。

《成績評価の方法》

- ・授業時間内に課す「ミニレポート」に対する評価 70%
- ・学期末に課す「まとめのレポート」に対する評価 30%
- ・レポートは提出期限を厳守しなければ採点対象とならない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児理解の必要性	子どもの目に見える行動を把握するだけでなく、内面世界に目を向けることで行動の意味を理解することがいかに重要かを理解する。
2	子どもの発達の理解	幼稚園教育要領を題材にし、幼児の特性と幼児期の発達の特徴を確認する。
3	子どもの内面の理解	子ども時代の様々なエピソードを受講学生から収集し、そのエピソードを題材として子どもの心の動きを理解し子どもに寄り添うための練習をする。
4	子どもの内面の理解	絵本に描かれた子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
5	子どもの内面を理解するための方法	実習日誌に記録された子どもの姿から、子どもの内面世界を理解する。
6	子どもの内面を理解するための方法	子どもと関わりつつ観察することによって浮かび上がってくる子どもの内面世界を理解する。
7	子どもの内面を理解するための方法	描画や歌などの子どもによる自己表現を通して、子どもの内面世界を理解する。
8	子どもの内面を理解するための方法	子どもの理解を妨げる要因としてのステレオタイプについて学ぶ。
9	子どもの理解と援助	子どもを理解し援助する上で不可欠となるカウセリングマインドについて理解する。
10	子どもの理解と援助	遊びを主とした子どもと保育者との関わりを通じて、子どもがどのように育つのかを理解する。
11	子どもの理解と援助	子どもの気になる行動をどう理解し、どのように対処していけばよいかを事例を通して考える。
12	子どもと子育てを取り巻く現状の理解	子育てを取り巻く現代的課題について理解する。
13	保護者支援のありかた	保育者と保護者との間に信頼関係を構築することの必要性を理解し、保育者と保護者との間に信頼関係を構築するためにとり得る方策について学ぶ。
14	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。
15	まとめ	授業を通して理解したことを総括する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	音楽教育				
担当者氏名	中島 龍一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかななくてはなりません。また、教育現場が多様化している現在、様々な状況の中で一人ひとりに偏りなく接する必要があります。これらを踏まえて、我が国における音楽教育の歴史を紐解き、子どもに音楽的教育を施すための技術を実践の中で学んでいきます。

《授業の到達目標》

- 子どもの歌を、年齢や状況に応じて導入部分から使い分けすることができる。
- 幼児教育者として必要とされる音楽の基礎知識と技術能力を身につけることができる。
- 教育的な面での「音楽」へのアプローチの仕方、考え方を身につけることができる。
- 様々な音楽を総合的に捉え、臨機応変に使うことができる。

《成績評価の方法》

実技・課題提出点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》

『おんがく玉手箱』
 『Cookin' Music 基礎から始める音楽づくり』
 『うたのメルヘン』（以上、共同音楽出版社）

《参考図書》

資料等は、必要に応じて指示・配布します。

《授業時間外学習》

授業で学んだことを自分のものとして理解し、実践できるように努力しましょう。

《備考》

- ①講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
- ②室内での飲食厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容の説明と実践。
2	子どもの歌・年齢と導入法(1)	1～2才児。
3	子どもの歌・年齢と導入法(2)	3～4才児。
4	子どもの歌・年齢と導入法(3)	4～5才児。
5	子どもの歌・年齢と導入法(4)	5才児以上。
6	音楽教育の歴史(1)	大正～明治時代。(わらべ歌を中心として)
7	音楽教育の歴史(2)	昭和～平成時代。(唱歌から子どもの歌への変遷)
8	音楽教育の歴史(3)	西洋の音楽教育事情について。
9	ドラムジカ演習(1)	ドラムジカの説明と準備。
10	ドラムジカ演習(2)	テーマ。使用曲選曲、台本作成等。
11	ドラムジカ演習(3)	台本作成・読み合わせ、小・大道具作成。
12	ドラムジカ演習(4)	実践練習。
13	ドラムジカ演習(5)	実践練習とリハーサル。
14	ドラムジカ演習(6)	ドラムジカ実践発表会と講評。
15	総まとめ	音楽教育の総合復習。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅰ				
担当者氏名	大西 雅裕				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

本授業は、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、保育者が行う保育相談支援についての概要について理解する。

《テキスト》

赤木正典・大西雅裕編著『相談援助セミナー』建帛社

《参考図書》

橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

保育相談支援の意義と原則について理解を深める。
 保育相談支援の実践について学び、その方法等について理解する。
 保護者支援の基本について理解する。

《授業時間外学習》

講義については、資料を作成し配布いたします。そして授業にむけての予習及び復習を丁寧に行ってください。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
 授業中に課すレポートと小テスト20% 合計100%

《備考》

授業では受け身ではなく、自分自身で考え、それを文字や言葉やその他の方法を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	保育現場の現状と子どもの置かれている状況等について
2	保育相談支援の意義	保護者に対する保育相談支援の意義や保育士の専門性による支援の状況
3	保育相談支援の基本	保育所とソーシャルワークの現状
4	相談支援の背景①	子どもについて
5	相談支援の背景②	家族と保護者の置かれている状況
6	相談支援の背景③	地域社会の現状、学校等
7	保育者の資質	保育者に必要な資質
8	保育ソーシャルワーク	保育ソーシャルワークの基本とその技術
9	相談の進め方	相談をどのように進めるのかについて解説する
10	相談に必要な基本的技法①	保育者にとって必要な相談技法について実践する①
11	相談に必要な基本的技法②	保育者にとって必要な相談技法について実践する②
12	具体的相談内容の検討①	保育所で展開される事例検討①
13	具体的相談何用の券島②	保育所で展開される事例検討②
14	具体的相談内容の検討③	地域での連携を中心として事例検討
15	まとめ	地域での連携とまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習ⅠA				
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育士の役割について実践的に学ぶ。

《テキスト》

実習園の指導内容を参考にする事 久富陽子『保育の学びスタートブック』萌文書林

《参考図書》

実習園の指導を参考にする事 保育実習指導Ⅰで用いた資料やノートを参考にする事

《授業の到達目標》

- 保育所の役割と機能について理解する。
- 保育所における乳幼児の生活を実践的に学ぶ。
- 保育士の職務について実践的に学ぶ。
- 観察や記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する。

《備考》

円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	保育実習指導ⅠA、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導ⅠA				
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

保育所での現場実習に向けて、実習の意義と目的を理解する。各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行う。

《テキスト》

久富陽子他『保育の学びスタートブック』萌文書林 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育所の役割と機能を理解する。
- 実習内容や方法、心得を理解し、現場実習に向けた準備を整える。 ○保育所を利用する子どもや保護者についての理解を深める。
- 保育士の職務内容について理解を深める。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

受講態度、課題提出物、保育実習ⅠAの評価と総合して行う。

《備考》

全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と実習全体の説明 保育士資格について 実習手続きについて
2	実習指導1	保育所の役割と機能
3	実習指導2	実習の意義と目的
4	実習指導3	保育所の生活(1) 乳児クラス
5	実習指導4	保育所の生活(2) 幼児クラス
6	実習指導5	保育所の生活(3) 子育て支援活動 保育所に勤務するさまざまな職種
7	実習指導6	保育士の職務(1)
8	実習指導7	保育士の職務(2)
9	実習指導8	実習の心構え(1) 実習生に求められること
10	実習指導9	実習の心構え(2) 子どもや保護者、職員とのかかわり
11	実習指導10	実習中に学ぶこと 実習における観察の視点(1)
12	実習指導11	実習中に学ぶこと 実習における観察の視点(2)
13	実習指導12	実習ノートの記入(1) 実習ノートの意味 記録の書き方(1)
14	実習指導13	実習ノートの記入(2) 記録の書き方(2)
15	実習指導14	直前指導 実習中の注意事項 実習終了後の注意事項

《専門教育科目 発展科目》

科目名	子育て支援地域活動Ⅰ				
担当者氏名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

子育て支援の理念や歴史・文化的視点から子育てを検討し、論じていく。また、幼稚園・保育所・子育てセンターなどの活動事例から子育て支援地域活動の効果や課題を明らかにする。さらに、近隣の子育て地域活動に参加し、実践的な学びを深める。

《テキスト》

『子育て支援の理論と実践』
 子育て支援プロジェクト研究会編 ミネルヴァ書房 2013

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- 地域を支える活動の意義やその歴史と展開、現行の活動の内容とその実態について理解する。
- 保育所、幼稚園、認定こども園、子育てサークル等の子どもを支える活動に参加し、子育てに地域が果たす役割を知る。
- 「こどもセンター」を活用し、地域の親子と触れ合いながら実践的な学びにつなげる。

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に出された課題は積極的に取り組む。
- (2) 地域のボランティア活動に積極的に参加する。
ただし、授業を優先すること。
- (3) 子育て支援に関する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと。

《成績評価の方法》

- ・ 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 30%
- ・ レポート課題等の提出物 50%
- ・ 演習への参加 20%

《備考》

授業形態は講義ですが、実践から理論を構築していきます。学生自身が主体的に実践からの学びを深めることを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援の意義	子育てを巡る状況や子育て支援の目的を理解する。
2	子育て支援の歴史と文化	現代の子育て状況を相対化し、歴史・文化的視点から育児を検討する。
3	子育て支援の取り組み①	幼稚園での保護者に対する子育て支援のあり方を検討する。〈事例1〉
4	子育て支援の取り組み②	幼稚園による地域の子育て支援についてその意義や実態を知る。〈事例2〉
5	子育て支援の取り組み③	保育所での保護者への支援や子どもを養育している家庭への支援のあり方を検討する。〈事例3〉
6	地域子育てセンターの取り組み①	地域子育て支援の中核的な役割を担っている子育てセンターの活動を参観し、その実態を知る。
7	地域子育てセンターの取り組み②	地域子育て支援の中核的な役割を担っている子育てセンターの活動を視点を持って参観し、その実態を知る。
8	地域子育てセンターの取り組み③	地域子育てセンター参観からの学びと課題について、グループ討議したことをレポートにまとめる。
9	地域に根ざした子育て支援	地域子育て支援活動の様々な支援のあり方を理解する。
10	地域に根ざした子育て支援	子育て支援地域活動の効果と展望と課題について検討し、地域に根ざした子育て支援のあり方を探る。
11	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
12	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
13	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
14	子育て支援地域活動実施に向けて	次年度へ向けての子育て支援地域活動の計画を企画・立案する。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を次年度の子育て支援地域活動Ⅱの授業で活かすことができる。

授業科目索引一覧 (50音順)

授 業 科 目 の 名 称		ページ
<エ>	英語	29
<オ>	音楽教育	121
<カ>	介護概論	93
<キ>	教育原理	71
	教育心理学	119
<ケ>	経済学	44
	健康・スポーツ科学Ⅰ (講義)	51
	健康・スポーツ科学Ⅱ (実技)	52
	健康・スポーツ科学Ⅲ (実技)	53
<コ>	国際理解と宗教Ⅰ (キリスト教)	36
	国際理解と宗教Ⅱ (イスラム教)	37
	子育て支援地域活動Ⅰ	125
	こどもと運動Ⅰ	80
	こどもと運動Ⅱ	81
	こどもと音楽Ⅰ	76
	こどもと音楽Ⅱ	77
	こどもと音楽表現	113
	こどもと環境	73
	こどもと健康	111
	こどもと言語表現	114
	こどもと言葉	74
	こどもと身体表現	75
	こどもと生活	115
	こどもと造形Ⅰ	78
	こどもと造形Ⅱ	79
	こどもと人間関係	112
	こどもの心理学Ⅰ	72
	こどもの心理学Ⅱ	100
	こどもの保健ⅠA	108
	こどもの保健ⅠB	109
	こどもの保健Ⅱ	110
	こども福祉基礎演習Ⅰ	98
	こども福祉基礎演習Ⅱ	99
	こども文化論Ⅰ	82
	こども文化論Ⅱ	116
	コンピュータ演習	30
<シ>	色彩とデザイン	38
	実用英語 (初級)	47
	実用英語 (中級)	48
	児童家庭福祉	65
	社会学	43
	社会調査の応用	95
	社会調査の基礎	94
	社会的養護	106
	社会的養護内容	107
	社会福祉Ⅰ	63
	社会福祉Ⅱ	64
	宗教と人生	31
	生涯学習論	61
	障害児保育Ⅰ	103
	障害児保育Ⅱ	104
	生涯発達心理学Ⅰ	62
	食と健康	46
	初年次演習Ⅰ	66
	初年次演習Ⅱ	67
	人権の歴史	41
<セ>	政治学	42
	精神医学	97
	精神保健福祉論	96
	生物学	45
	生命倫理学	32
<ソ>	相談援助	105
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	89
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	90
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	91

授 業 科 目 の 名 称		ページ
<チ>	中国語 (初級)	49
	中国語 (中級)	50
<テ>	低所得者に対する支援と生活保護制度	92
	哲学	33
<ニ>	日本語 (読解と表現)	28
	日本国憲法	40
	乳児保育Ⅰ	101
	乳児保育Ⅱ	102
	人間福祉論	68
<フ>	仏教と現代社会	35
	文学	34
<ホ>	保育課程総論	117
	保育原理Ⅰ	69
	保育原理Ⅱ	70
	保育実習ⅠA	123
	保育実習指導ⅠA	124
	保育相談支援Ⅰ	122
	保育内容総論	118
	法と社会	39
<ヨ>	幼児理解	120
<ワ>	私のためのキャリア設計	54